第１章　伊勢市の概況

１.市の概要

２.市の沿革

３.公共施設マネジメントにおける地区の考え方

４.市の人口特性、人口動態

５.地域の特性および特色

第１章　伊勢市の概況

１．市の概要

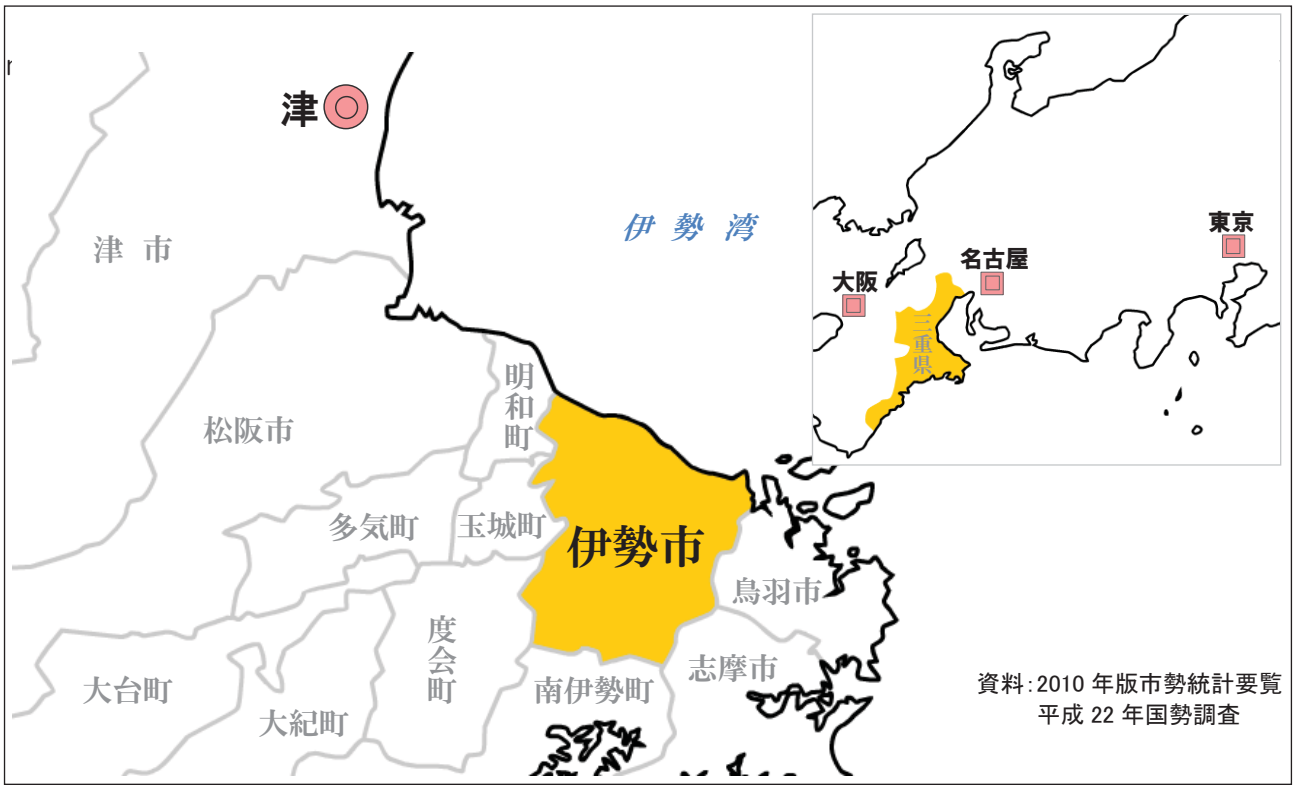
伊勢市は、三重県の中東部、伊勢平野の南端部に位置し、北は伊勢湾に面し、中央には日本一の清流を誇る宮川や五十鈴川および勢田川が流れ、東から南にかけては朝熊ヶ岳、神路山、前山、鷲嶺が連なり、西には大仏山丘陵が広がる自然に恵まれた都市です。

当市は、東に鳥羽市および志摩市と接し、西に多気郡明和町、度会郡玉城町、度会町、南は度会郡南伊勢町と接しており、これら近隣市町の中心市として、通勤通学、買い物レジャーなど日常生活圏を共有しています。

また、伊勢志摩国立公園の玄関口として、豊かな自然と美味しい食材に恵まれた当市には、歴史と文化に富んだ名所・旧跡も多く、魅力ある地域資源があふれています。伊勢のまちは、古くから日本人の心のふるさと「お伊勢さん」として親しまれ、神宮御鎮座のまちとして栄えてきました。今もなお、全国各地から多くの観光客が訪れています。

平成 17 年 11 月 1 日、伊勢市、度会郡二見町、小俣町、御薗村、の４市町村（1 市２町１村）が合併し、新しい「伊勢市」が誕生しました。

面　　積	208.526ｋm^2【平成 22 年 1 月 1 日】				
	区分	田	22.989ｋm^2	畑	10.537ｋm^2
		宅地	20.235ｋm^2	池沼	0.139ｋm^2
		山林	41.203ｋm^2	原野	0.975ｋm^2
		雑種地	6.256ｋm^2	その他	106.192ｋm^2
人　　口	130,271 人　【平成 22 年 10 月 1 日現在】				
	男	61,482 人		女	68,789 人
	人口密度	624.7 人／km^2		世帯数	49,361 世帯



２．市の沿革

（１）合併

伊勢市は、明治 22 年の町村制施行により、内宮の鳥居前町である「宇治」と、外宮の鳥居前町である「山田」を合わせて、「宇治山田町」として誕生しました。明治 39 年９月１日には、「宇治山田市」と改称しました。 その後、昭和 16 年５月５日に度会郡神社（かみやしろ）町、昭和 18 年 12 月１日に度会郡大湊（おおみなと）町、宮本（みやもと）村及び浜郷（はまごう）村、昭和 30 年１月１日に度会郡北浜（きたはま）村、豊浜（とよはま）村、四郷（しごう）村及び城田（きだ）村を合併して農漁村地域を編入するとともに、中央部の市街化を進め、都市としての形態を整えました。そして、同年１月１日に「伊勢市」と改称しました。昭和 30 年４月１日に度会郡沼木村、昭和 32 年４月１日には度会郡玉城町粟野地区を編入しました。ここまでに合併・編入した９町村名は、現在も支所として残っています。

二見町は、明治 22 年の町村制施行により、「東二見村」と「西二見村」が誕生し、明治 41 年５月１日には２村が合併して「二見町」となりました。

小俣町は、明治 22 年の町村制施行により「小俣村」が誕生し、昭和３年 11 月３日には町制を施行し「小俣町」となりました。その後、昭和 30 年４月 10 日に有田村湯田等を編入し、昭和 32 年１月 15 日に斎明村（現・多気郡明和町）明星との境界変更をおこないました。

御薗村は、明治 22 年の町村制施行により、高向、長屋、王中島、新開、上條、小林の６つの村が合併し「御薗村」となりました。

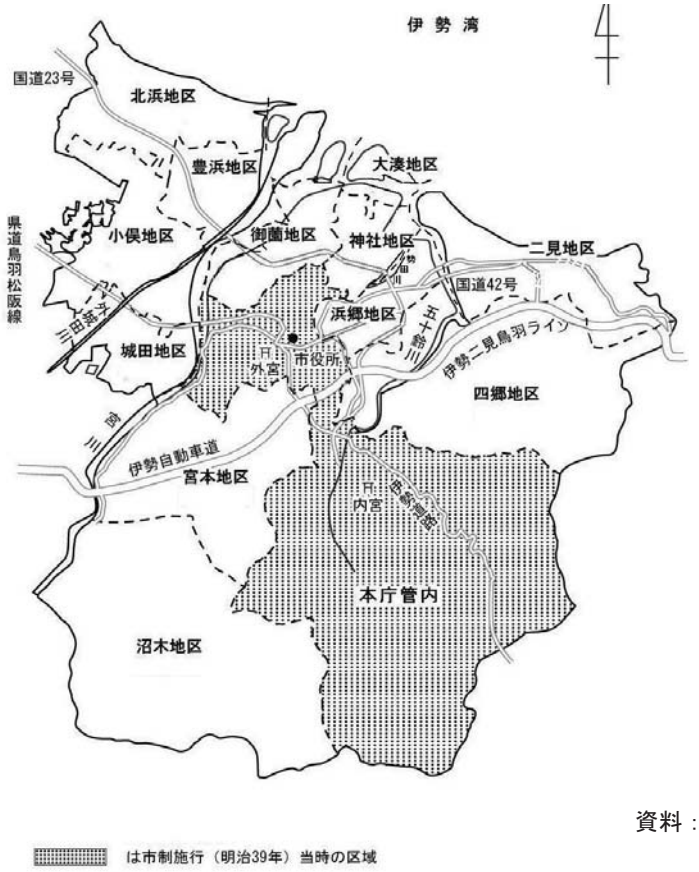
平成 17 年 11 月１日、伊勢市、二見町、小俣町、御薗村の４市町村が合併し、新「伊勢市」が誕生し、２町１村の役場は総合支所となりました。

表　平成１７年の合併直前の人口と旧市町村の面積

	人　口（人）	面　積（km²）
旧・伊勢市	９７，７７７	１７８．９７
旧・二見町	９，０９５	１１．９４
旧・小俣町	１８，９８６	１１．５６
旧・御薗村	９，１１５	６．０５
新・伊勢市	１３４，９７３	２０８．５２

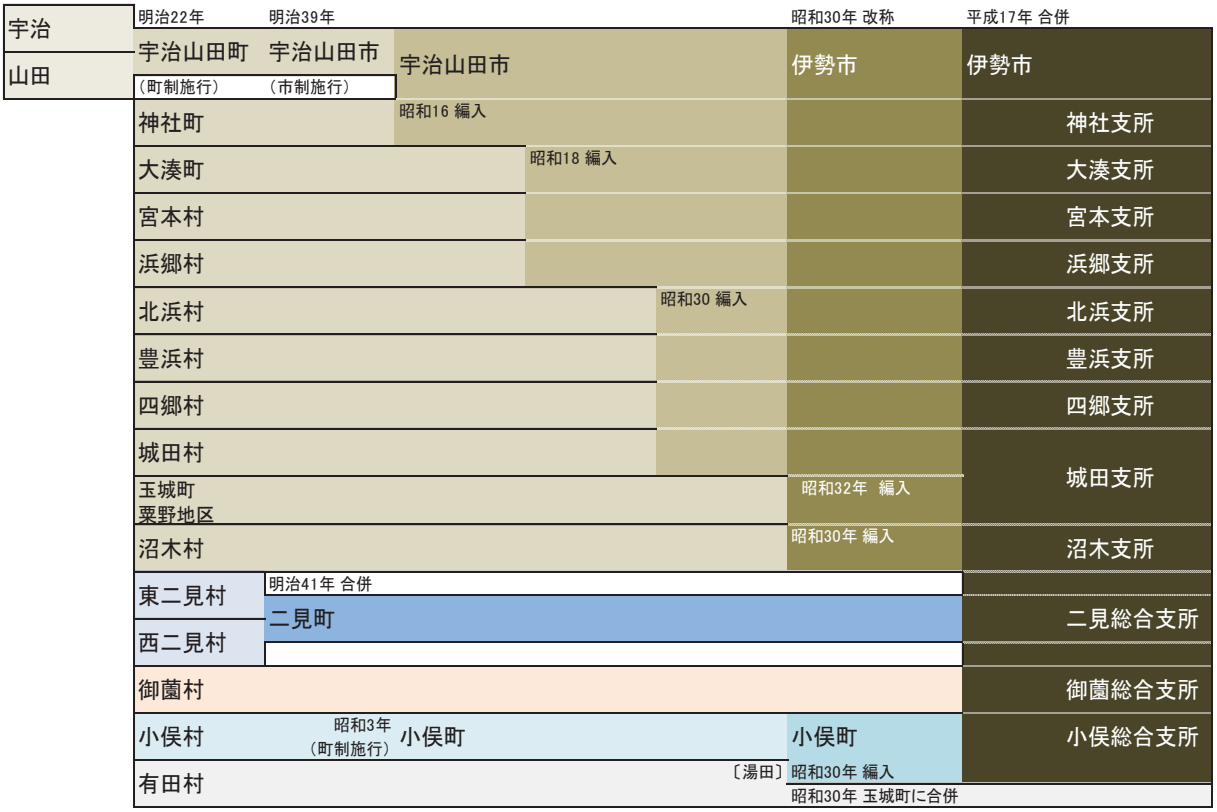
資料：平成 17 年国勢調査

図　旧町村名および平成 17 年以前における伊勢市の地区名



資料：2010 年版市勢統計要覧

図　合併による変遷と支所および総合支所名



（２）鉄道・道路の開通

鉄道は参宮を中心とした観光を目的として整備されてきました。現在のＪＲと近鉄は、明治から昭和初期かけて、外宮の最寄り駅にあたる伊勢市駅もしくは宇治山田駅まで路線を開通し、その後鳥羽方面へと延伸しました。戦後の高度成長期以降は、モータリゼーションの進展によって道路整備が行われてきましたが、主に「遷宮」の年を目指して行われたという特徴があります。また、市民や観光客の足としては、路面電車も運行されていましたが、バスの普及や風水害により廃線となりました。

鉄道や道路の開通は、住宅整備にも大きな影響を及ぼしています。昭和 44 年から 45 年にかけて、近鉄線が宇治山田駅から鳥羽駅にかけて延伸し、五十鈴川駅が開業しました。これに伴い、五十鈴川駅周辺は住宅地が形成されています。また、県道鳥羽松阪線（旧国道 23 号線）や国道 23 号線の開通に伴い、沿道には郊外型商業施設が立ち並び、その周辺にはアパートおよびマンション、戸建て建築等の宅地開発が行われました。小俣地区、御薗地区、港地区は道路の開通による、市街地の拡大により人口が増加してきたといえます。近年は伊勢自動車道と伊勢二見鳥羽ラインの開通により、二見ジャンクション周辺に宅地開発が進んでいます。

内宮の鳥居前町である「おはらい町」では、増加した自動車利用者のニーズを取り込んで賑わいが生まれました。一方で、観光客が内宮のみの参拝に偏り、鳥羽・志摩方面へと向かってしまうことにもなりました。

マイカーが普及したことで市街地は拡大しましたが、郊外型商業施設の登場や観光客の行動パターンの変容などによって、まちの郊外化や中心市街地の低迷といった問題も引き起こしています。

（参考：伊勢市史・第8巻民俗編，伊勢市都市マスタープラン地域別構想）

【鉄道】 ＪＲ参宮線

明治 26（1893）	宮川以北開通、宮川駅開業
明治 30（1897）	山田（伊勢市）まで延伸、山田上口（筋向橋）駅、伊勢市（山田）駅開業
明治 44（1911）	鳥羽まで延伸、二見浦駅開業
昭和 38（1963）	五十鈴ヶ丘駅、松下駅開業

近鉄 山田線・鳥羽線

昭和 5（1930）	伊勢市（山田）以北開通、明野、宮町（外宮前）、伊勢市（山田）、各駅開業
昭和 6（1931）	宇治山田まで延伸、小俣、宇治山田、両駅開業
昭和 44（1969）	五十鈴川まで延伸（鳥羽線）、五十鈴川駅開業
昭和 45（1970）	鳥羽（志摩線と連絡して賢島）まで延伸、朝熊駅開業

【道路】 県道鳥羽松阪線（旧・国道 23 号線）

昭和 42（1967）	無料化

国道 23 号線（南勢バイパス）

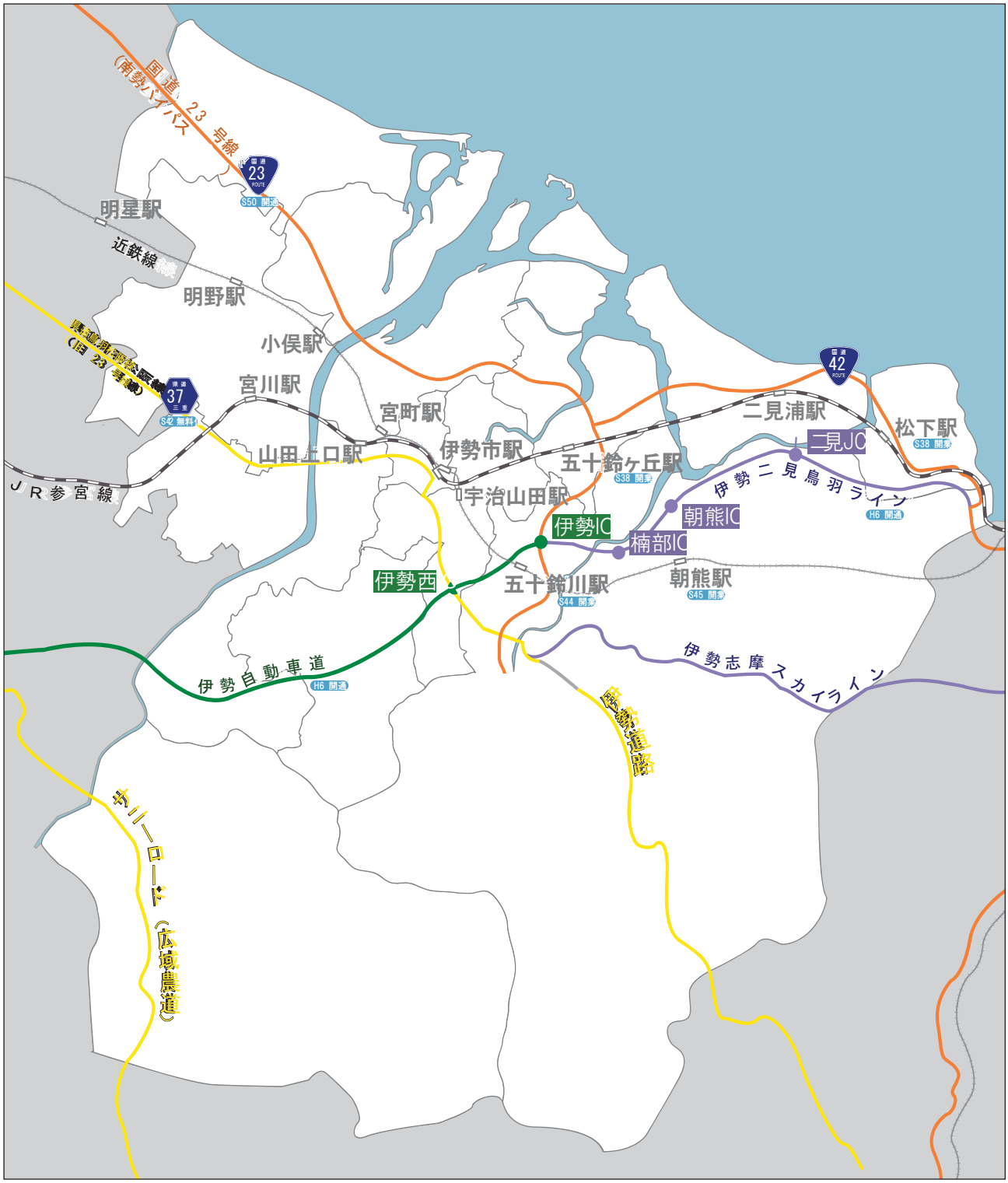
昭和 50（1975）	開通

伊勢自動車道・伊勢二見鳥羽ライン･･･【伊勢 IC・伊勢西 IC・二見 JCT 周辺】

平成６（1994）	開通

資料：伊勢市史

図　伊勢市の鉄道と主な道路

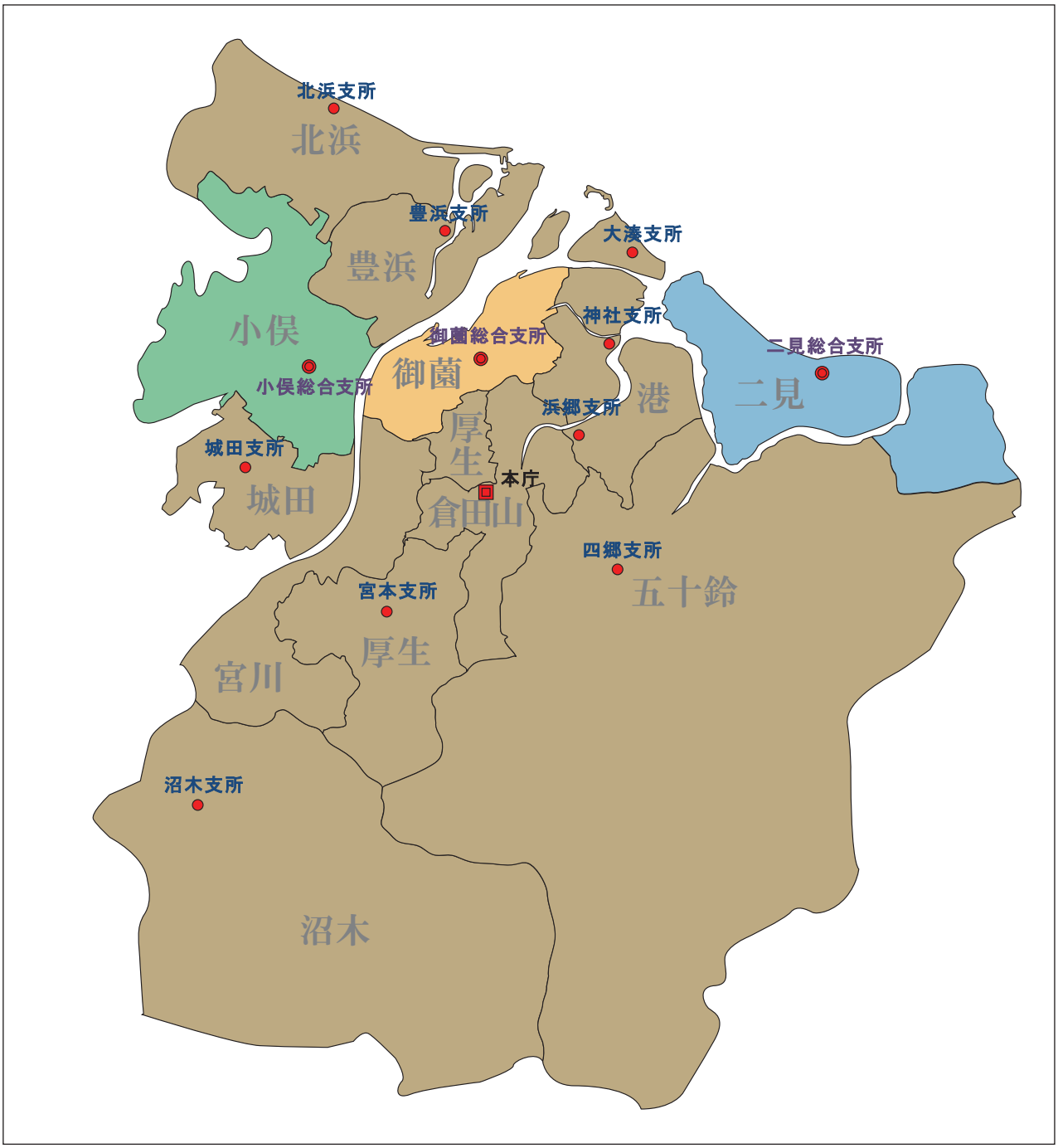


３．公共施設マネジメントにおける地区の考え方

伊勢市の公共施設マネジメントにおける地区の考え方については、人口分布および市民の生活圏域等を元に考え、中学校区を基本とした 12 地区を考え方の基本とします。

市の組織、とりわけ本庁舎、支所および総合支所の配置は、中学校区を基本とした１２地区とは少し異なります。本庁舎は倉田山地区にあり、昭和 16 年から 30 年に編入した９町村には、支所が配置されています。平成 17 年に合併した、二見、小俣、御薗には総合支所が設置されています。これは旧町村の役場に該当します。

図　12 地区区分と本庁・支所・総合支所の配置

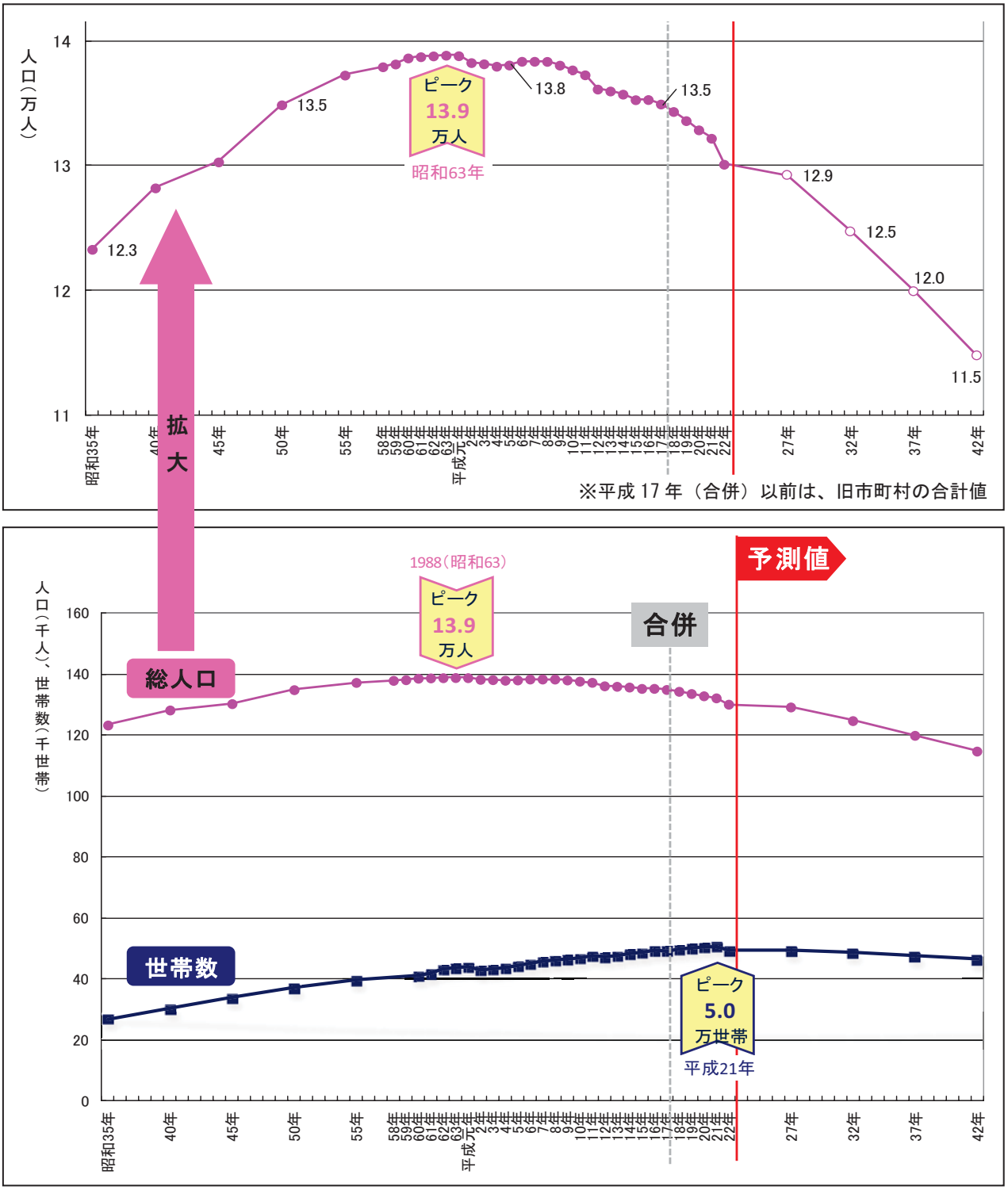


４．市の人口特性、人口動態

（１）市の人口の推移

伊勢市の人口推移は、昭和 35 年から昭和 63 年の 13.9 万人まで増加し続けていましたが、以降減少傾向にあり、現在では既に昭和 45 年当時の人口規模となっています。今後も人口は減少し続けると予想されます。世帯数は核家族化の進行により概ね増加傾向で推移してきましたが、今後は減少することが予想されます。

図　人口及び世帯数の推移



資料：国勢調査、情報調査室資料

（２）市民の１日の流出入状況

平成１７年国勢調査のデータによると、昼間人口と夜間人口の差はごくわずかですが、流入人口よりも流出人口のほうが多くなっています。流出先は松阪市、津市をあわせて 42%と、中勢地区が多くを占めています。流入先は志摩市、松阪市、明和町、玉城町、鳥羽市と近隣の自治体が多く、同じデータを、旧市町村別に分けて見てみると、旧伊勢市は若干流入が多く、旧二見町と旧小俣町は流出が多くなっています。

図　流出入人口

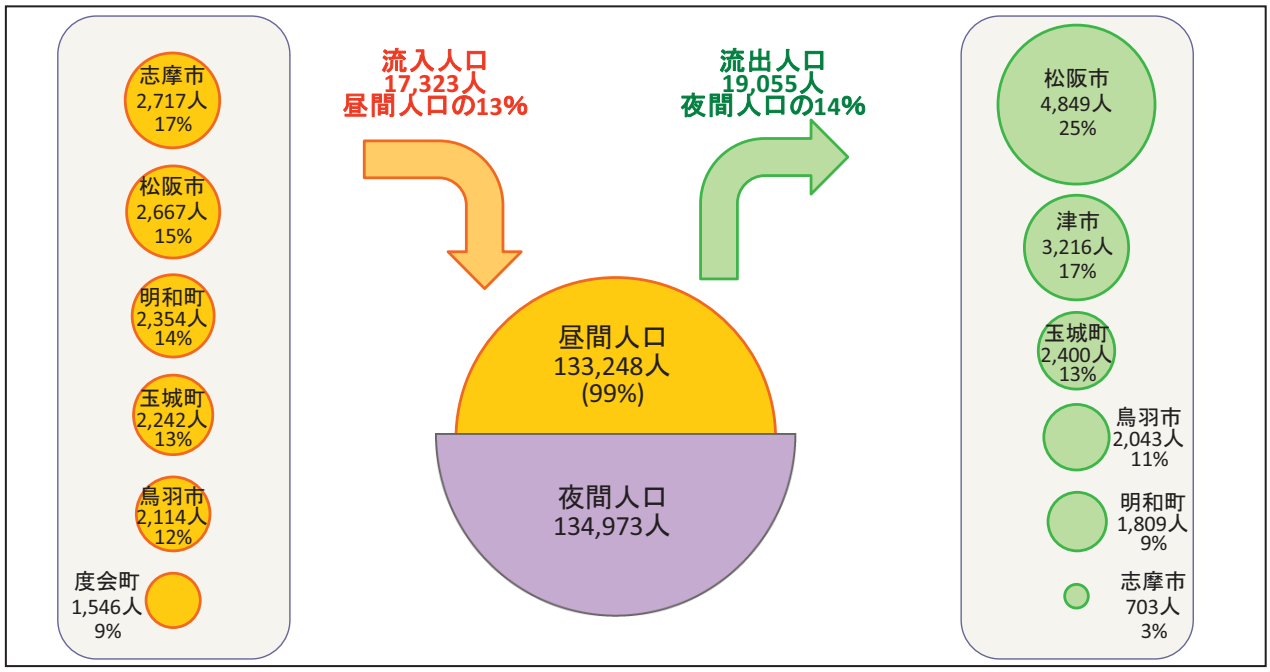
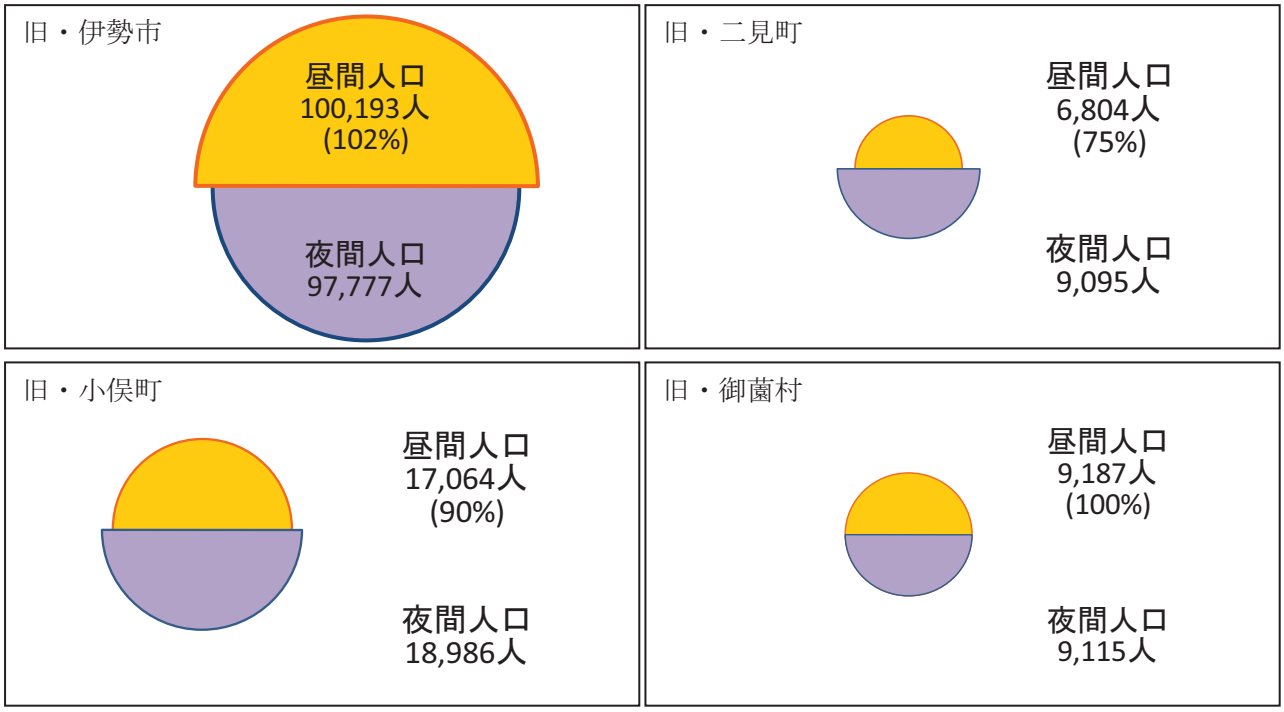


図　地区別人口動態

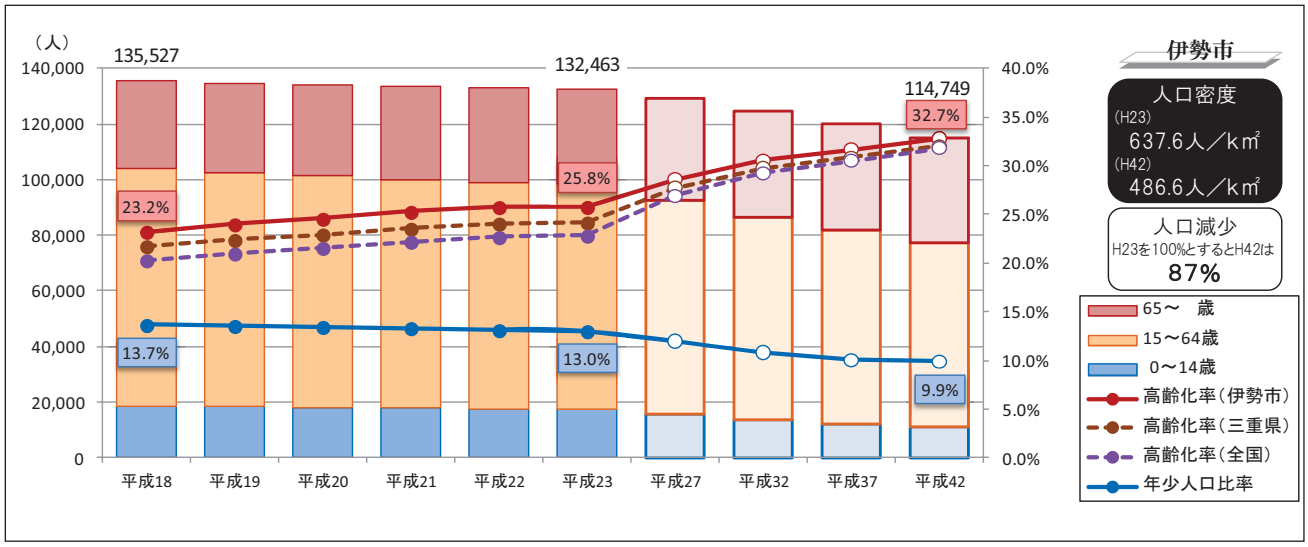


資料：平成 17 年　国勢調査

（３）伊勢市全体における階層別人口の推移

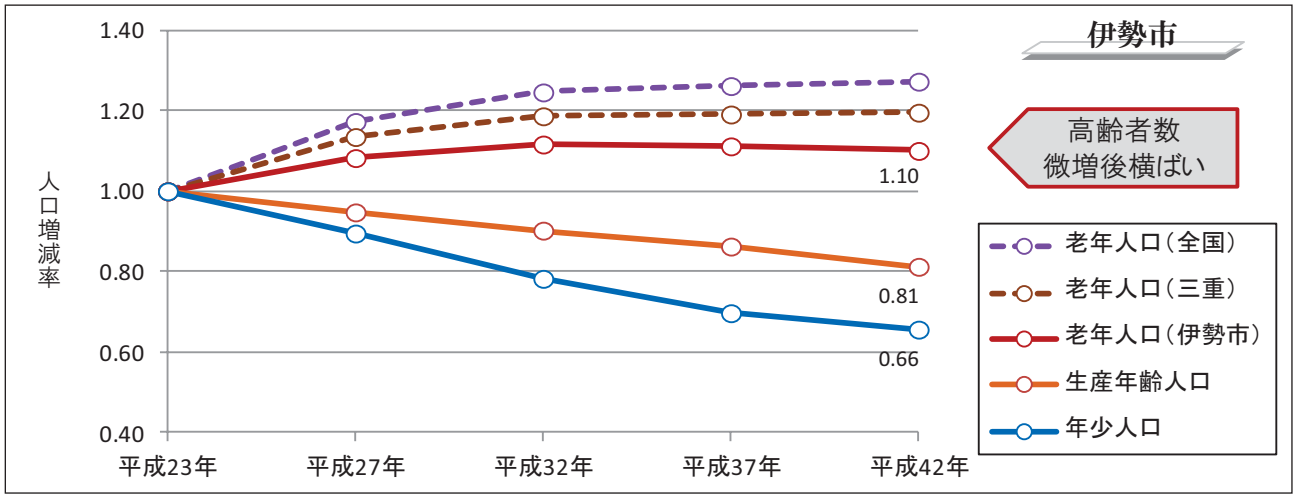
①　高齢化率と年齢階層別人口推移

伊勢市の人口推移は、下のグラフのとおりで、減少傾向を示しています。高齢化率は上昇、年少人口比率は低下しており今後も続くと予想されます。平成 23 年の高齢化率は、伊勢市は 25.8%で、全国平均 22.8%、三重県平均 24.2%を上回っており、既に高齢化が進んでいる状況です。



②　高齢者数の推移

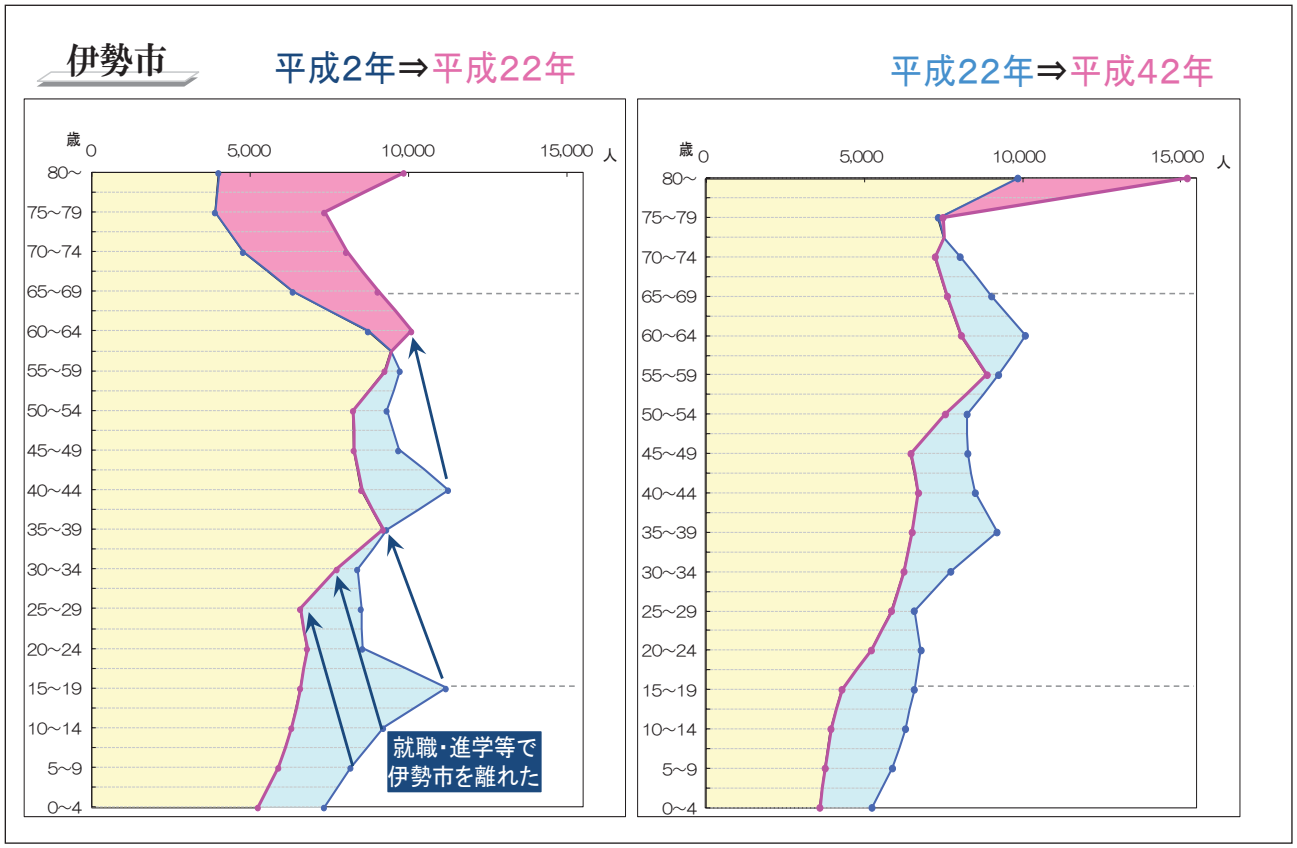
今後の高齢者数の見通しでは、伊勢市の増加率は国と県を下回り、おおむね横ばいに推移すると予想されます。ただし、生産年齢人口及び年少人口は減少が進むと見込まれることから、高齢化率は上昇する見通しであるため、こうした傾向に沿った対策が必要です。



③　世代別人口推移

人口を世代別（5 歳階級別）に見ると、平成 22 年では 30 代後半と 60 代前半の二つの年齢階級を大きな頂点とした人口構成で、概ね年齢が若くなるにしたがって人口が少なくなっています。また、平成２年から平成 22 年の人口推移によると、就職・進学期に流出傾向が見られます。

20 年後には上記の 30 代後半の層は退職期に差し掛かります。また、これまで一様に増加してきた高齢者は、前期高齢者（65～74 歳）では減少し後期高齢者（75 歳以上）が増加することが見込まれます。世代別人口の分布はよりなだらかになり、全体的な人口縮小のなかで伊勢市の高齢化は進展すると予想されます。



資料：平成 22 年　国勢調査
将来の伊勢市のすがた

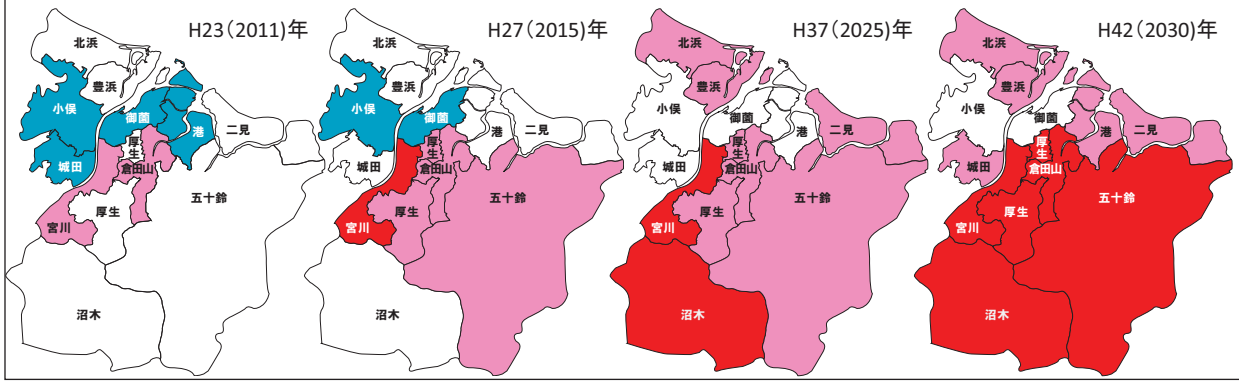
（４）地区ごとにおける階層別人口の推移

伊勢市は、若い世代が中心市街地から近郊、郊外へ移り住む傾向があります。高齢化率を地区ごとに見ていくと、平成 23 年現在において、伊勢市全体の平均（26%）より高いグループ（27%以上）、平均に近いグループ（26 ないし 25%）、平均より低いグループ（24%以下）に分けられます。各グループの特徴は、将来人口予測においてより明確になっています。なお、平均に近いグループの中で、沼木地区は独特の傾向を示し、将来予測における高齢化率の上昇速度が他地区より早いため、集落地区としました。

図　地区ごとに見る高齢化率の変化

		高齢化率				
		H23	H27	H32	H37	H42
	伊勢市	**26%**	**29%**	**31%**	**32%**	**33%**
市街	倉田山	30%	33%	34%	34%	35%
	五十鈴	29%	31%	33%	34%	35%
	厚生	28%	30%	31%	33%	35%
	宮川	32%	35%	37%	38%	39%
近郊	港	21%	25%	28%	29%	31%
	城田	23%	27%	28%	29%	31%
	小俣	21%	24%	26%	27%	29%
	御薗	21%	24%	27%	27%	29%
郊外	豊浜	26%	29%	32%	34%	34%
	北浜	26%	28%	29%	31%	32%
	二見	25%	28%	29%	30%	31%
集落	沼木	25%	29%	34%	37%	39%

35%以上
30～34%
25～29%
24%以下



① 「市街」グループ…倉田山・五十鈴・厚生・宮川　　高い高齢化率⇒さらに上昇

- 平成 23 年の段階で伊勢市全体の平均より高い
- 平成 27 年以降は 30%より高い
- 平成 42 年には 35%より高い

② 「近郊」グループ…港・城田・小俣・御薗　　市内平均より低い高齢化率⇒中程度で推移

- 平成 23 年の段階で伊勢市全体の平均より低い
- 平成 37 年までは 30%より低い

③ 「郊外」グループ…豊浜・北浜・二見　　市内平均的な高齢化率⇒中程度で推移

- 平成 23 年の段階で伊勢市全体の平均に近い
- 平成 42 年には 30%～34%

④ 「集落」グループ…沼木　　市内平均的な高齢化率⇒大きく上昇

- 平成 23 年の段階で伊勢市全体の平均に近い
- 平成 37 年以降は 35%より高い

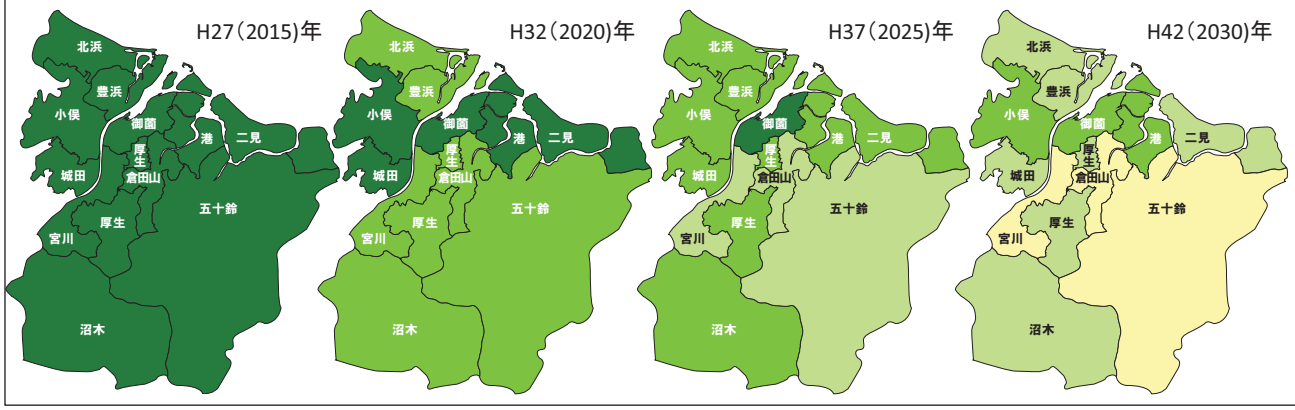
※グループ名としている「市街」「近郊」「郊外」「集落」は便宜上わかりやすくするためのものです。

平成 23 年の人口を 100%とし、将来の人口の比率を地区ごとに見ると、高齢化率の変化が類似するグループは、人口の減少傾向においても同様の変化を示しています。

図　地区ごとに見る人口減少率

		人口減少			
		H23→H27	H23→H32	H23→H37	H23→H42
	伊勢市	**98%**	**94%**	**91%**	**87%**
市街	倉田山	96%	92%	87%	82%
	五十鈴	97%	93%	88%	84%
	厚生	98%	94%	90%	86%
	宮川	97%	91%	86%	81%
近郊	港	99%	96%	94%	91%
	城田	97%	95%	92%	88%
	小俣	98%	96%	94%	91%
	御薗	99%	97%	95%	92%
郊外	豊浜	97%	94%	90%	86%
	北浜	97%	93%	90%	87%
	二見	98%	95%	92%	88%
集落	沼木	98%	94%	90%	86%

95%以上
90～94%
85～89%
84%以下



① 「市街」グループ…倉田山・五十鈴・厚生・宮川　**減少割合大**

- 平成 32 年には 95%以下になる
- 平成 37 年には 90%以下になる
- 平成 42 年には 85%以下になる地区が多い（他のグループにはない）

② 「近郊」グループ…港・城田・小俣・御薗　**減少割合小**

- 平成 32 年まで 95%以上を維持する
- 平成 37 年には 95%以下になる
- 平成 42 年の段階で 90%以上を維持している地区が多い（他のグループにはない）

③ 「郊外」グループ…豊浜・北浜・二見　**減少割合中**

- 平成 37 年まで 90%以上を維持する
- 平成 42 年には 85%～89%

④ 「集落」グループ…沼木　**減少割合中**

- 平成 37 年まで 90%以上を維持する
- 平成 42 年には 85%～89%

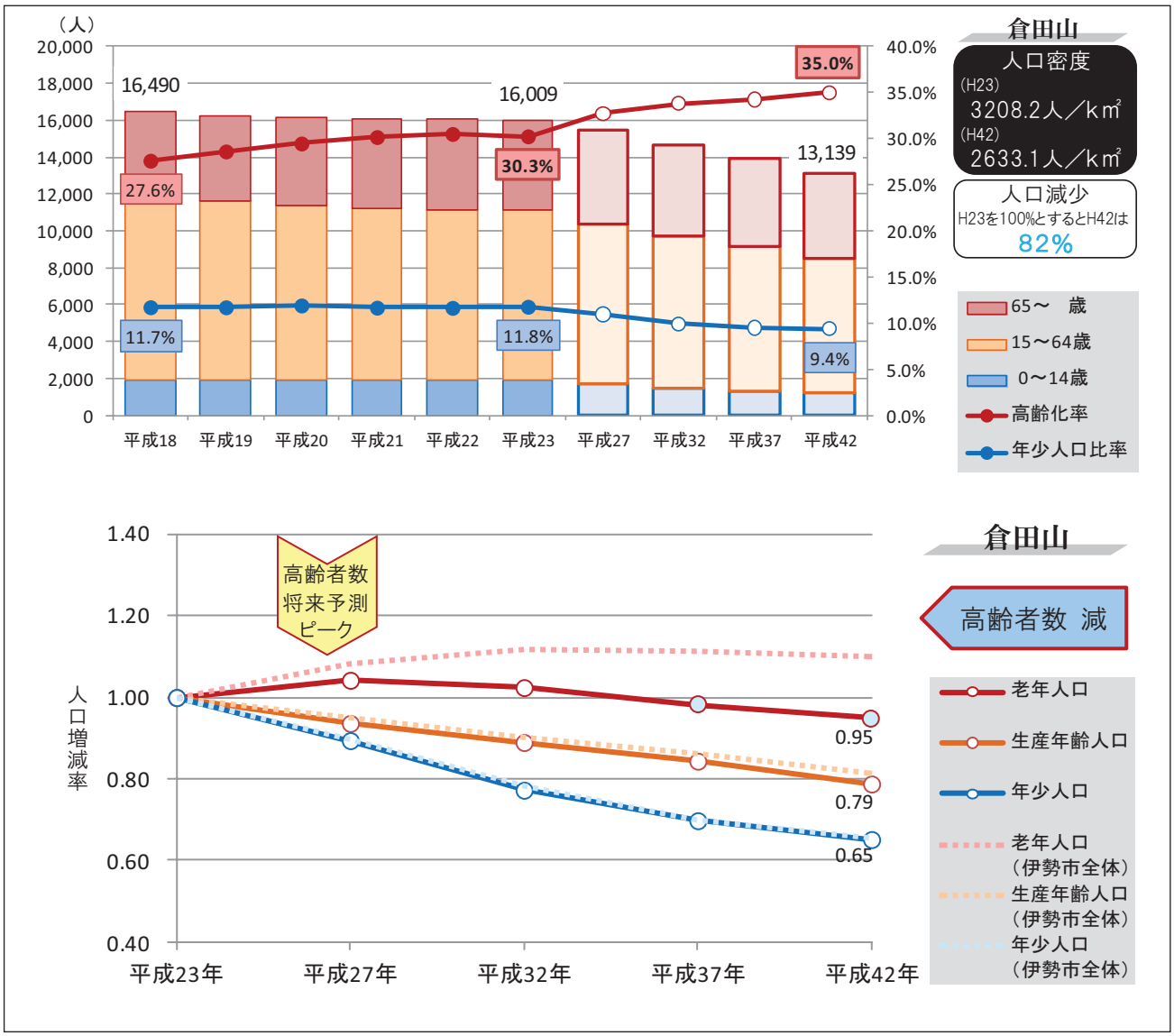
※グループ名としている「市街」「近郊」「郊外」「集落」は便宜上わかりやすくするためのものです。

■　倉田山地区（市街グループ）

人口密度は、他地区と比較し圧倒的に高くなっています。

将来人口推計によると、平成 23 年の人口に対し、平成 42 年は 82%に低下し、市内で２番目に高い比率で減少が進みます。将来の高齢化率は 35%と高い比率となりますが、高齢者数も減少するのが特徴です。

高齢者数が減少する地域では、公共施設が保有する機能を効率的に残し、総床面積の見直しが課題となります。



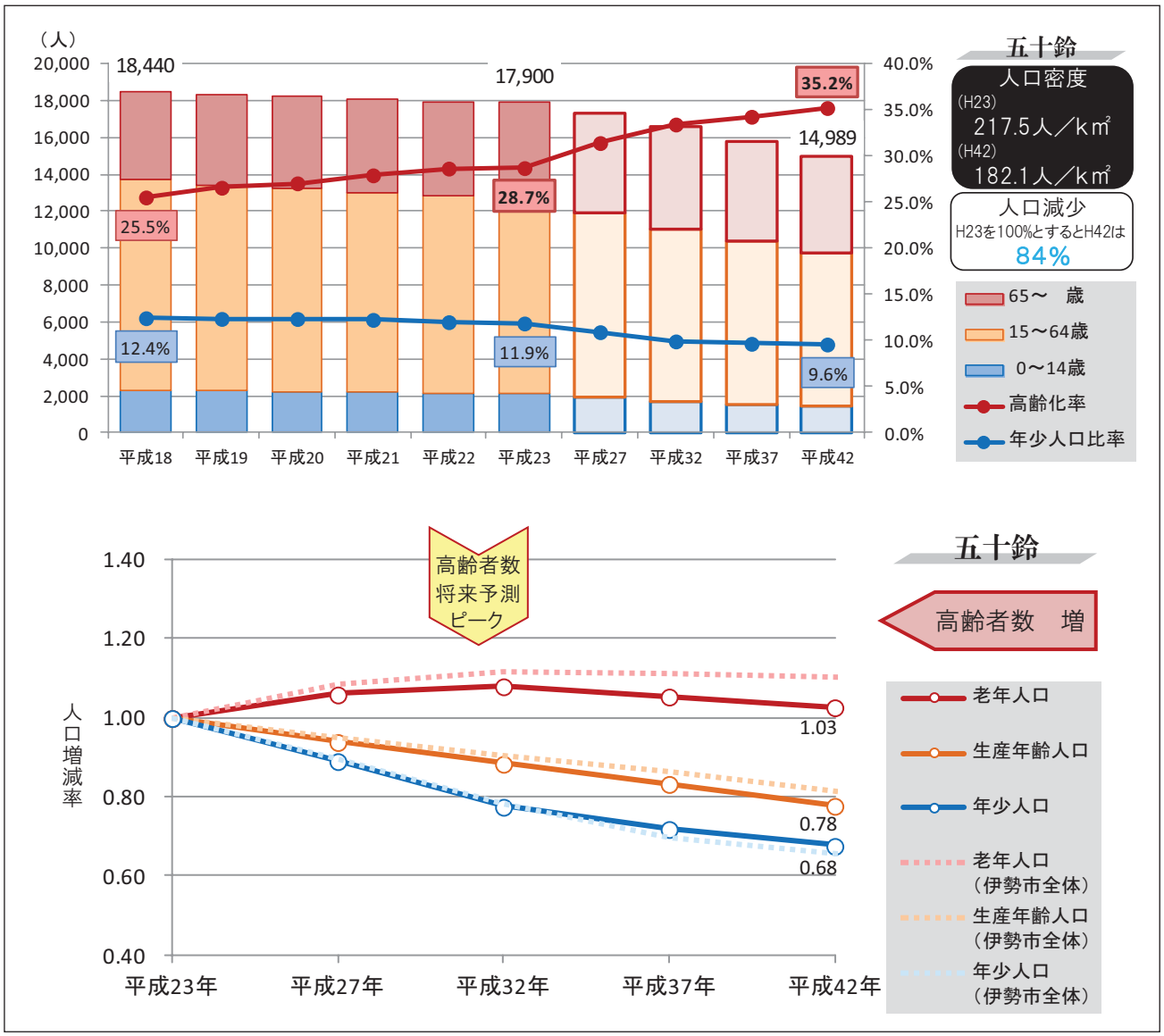
資料：将来の伊勢市のすがた

■　五十鈴地区（市街グループ）

人口密度は、平成 23 年現在、217.5 人／km² と市街グループの中では小さい地区です。これは域内の大部分を皇大神宮（伊勢神宮・内宮）や神宮林が占めているためです。

将来人口推計によると、平成 23 年の人口に対し、平成 42 年は 84%に低下し、高い比率で減少が進みます。

世代別の人口推移は、倉田山地区と同様に、高齢化率は上昇しながらも高齢者数は減少していくことが予想されます。



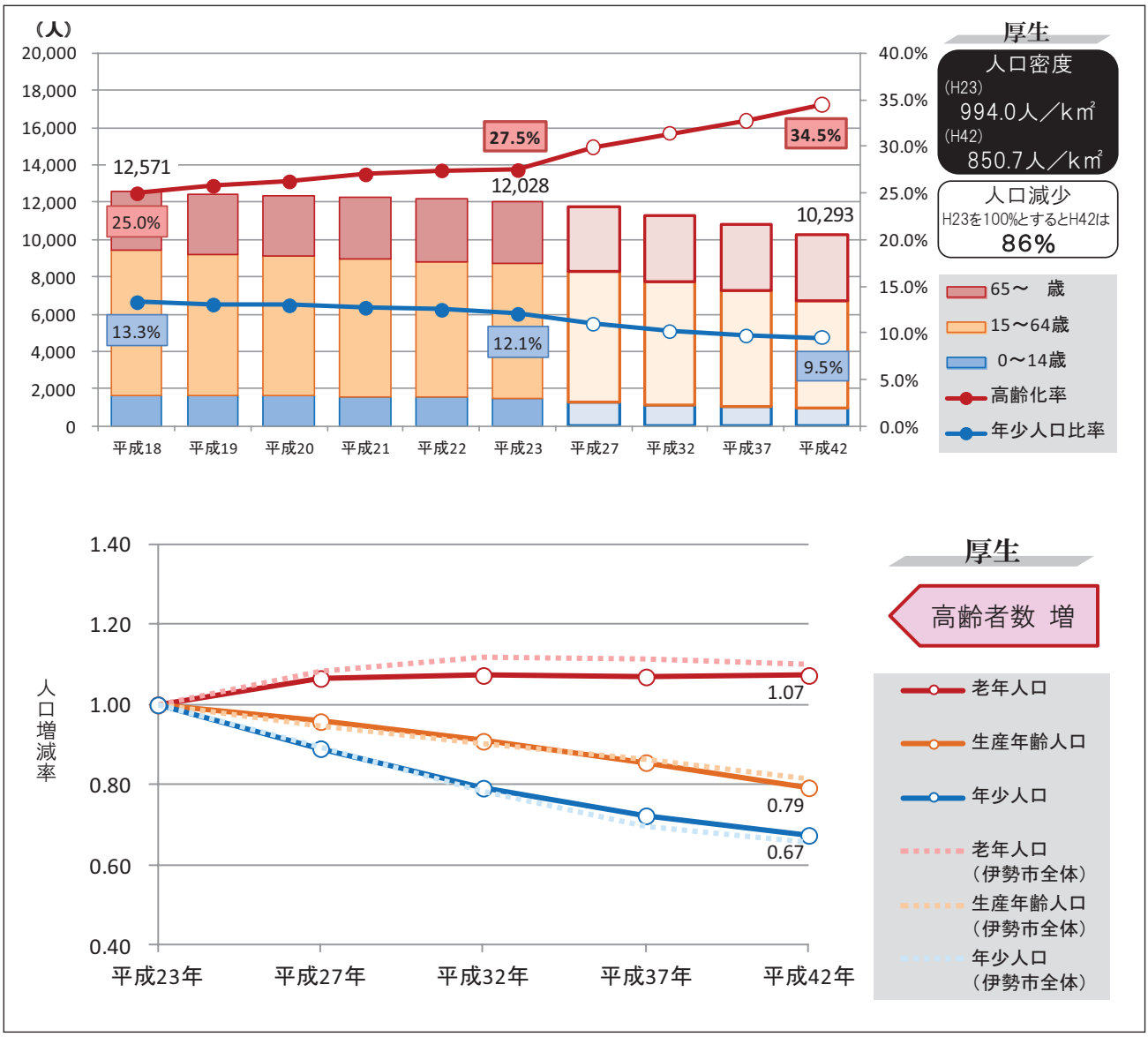
資料：将来の伊勢市のすがた

■　厚生地区（市街グループ）

平成 23 年の人口は市内では比較的多く、人口密度も高い地区です。高齢化率は市全体の平均より若干高く推移しています。

将来推計人口によると、平成 23 年の人口に対し、平成 42 年は86%に低下します。高齢者数は、ほぼ横ばいで推移しますが、人口は減少するため、高齢化率は 34.5%と高くなるのが特徴です。

若い世代の人口減少に回復がみられなければ、中心市街地の低迷が続く懸念があります。



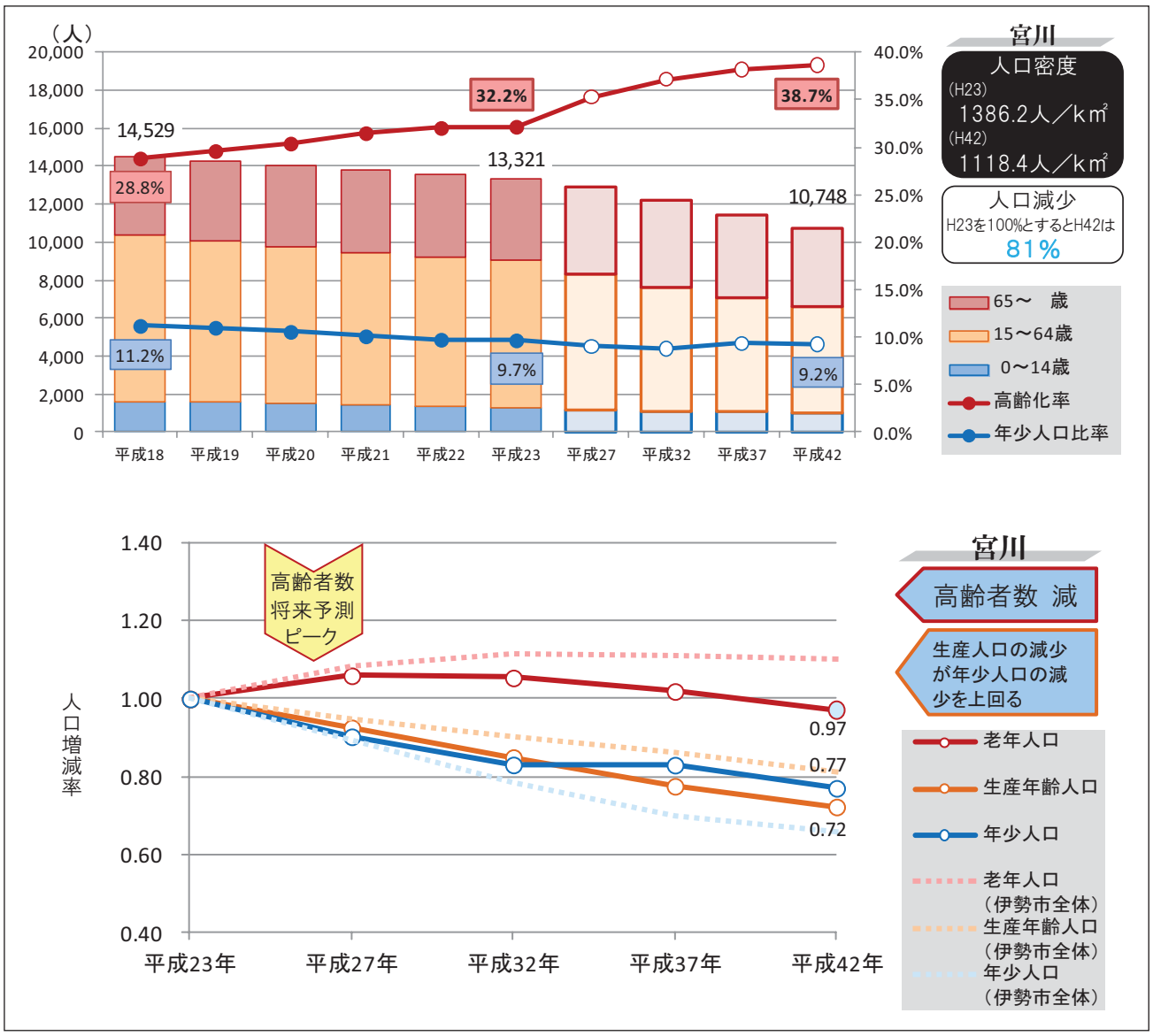
資料：将来の伊勢市のすがた

■　宮川地区（市街グループ）

平成 23 年の高齢化率は市内で最も高い地区で、将来予測においてもいち早く 35%を突破し、平成 42 年では 38.7%に達する見通しです。

将来推計人口によると、平成 23 年の人口に対し、平成 42 年は 81%に低下し、市内で最も人口減少が顕著となる地区です。

年少人口比率においては、平成 23 年で 9.7%と 12 地区中で唯一 10%を下回っており、新しい世代への入れ替わりが滞っている地域であるということがわかります。

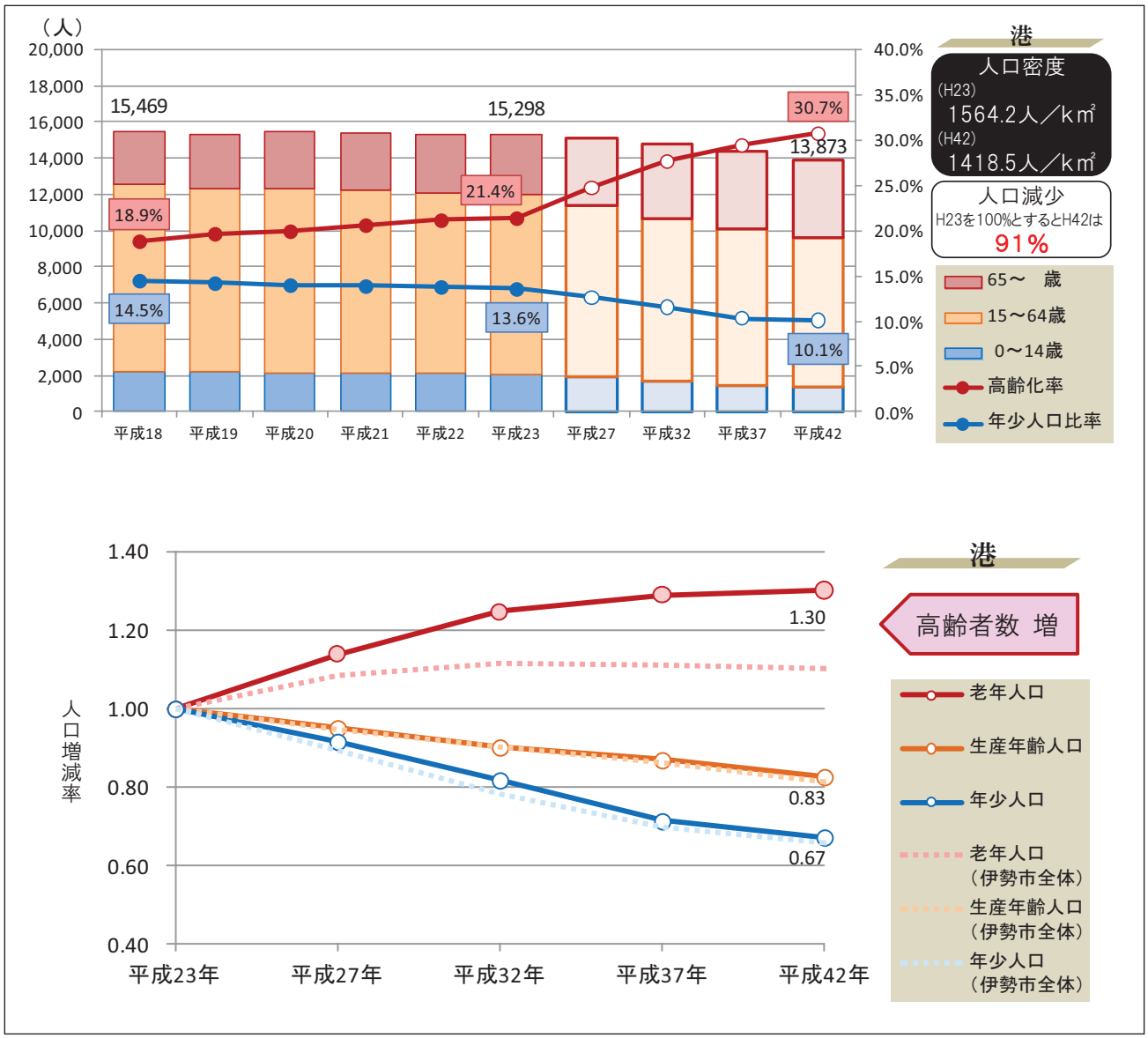


資料：将来の伊勢市のすがた

■　港地区（近郊グループ）

比較的、人口規模は大きく人口密度も高い地区です。将来推計人口においても、平成 42 年における減少が少ないグループです。

高齢化率は、21.4%と市内で最も低いグループに属しています。平成 42 年予測は 30.7%と市内全体平均より低いですが、高齢者数の増加割合が高いことから、現時点では働き手となる人々が比較的多い状態ですが、次第に高齢者層に移っていくことにより、将来的な人口構成の変化による影響が大きいと考えられます。



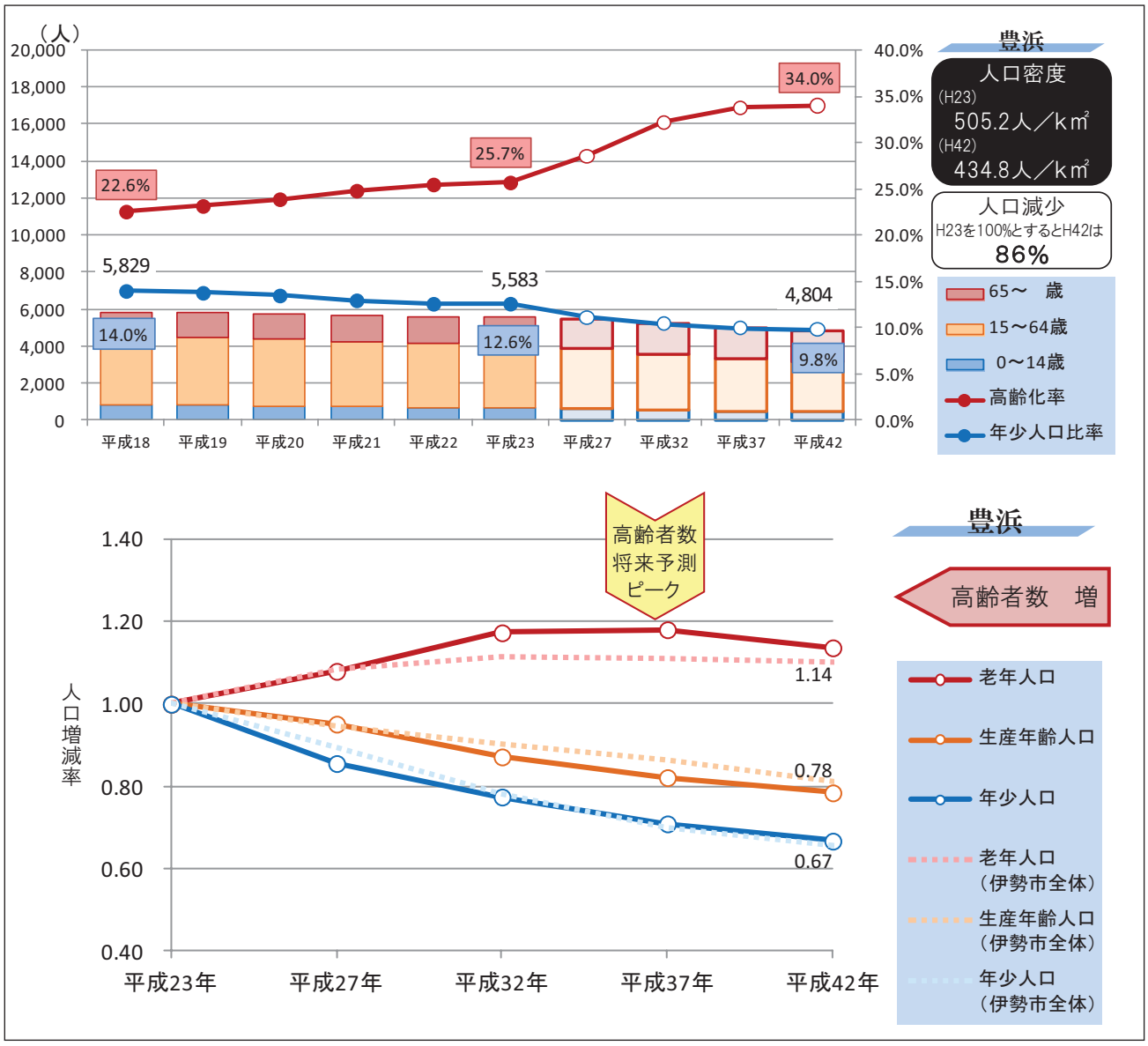
資料：将来の伊勢市のすがた

■　豊浜地区（郊外グループ）

平成 23 年の人口は、12 地区中 2 番目に小さい規模で、高齢化率は市内全体平均（26%）に近い値です。

将来推計人口によると、平成 23 年の人口に対し、平成 42 年は86%に低下し、減少割合は平均的な値となっています。生産年齢人口の減少幅が比較的大きくなると予測され、これまでの年少人口の減少傾向が、生産年齢人口の減少へと移っていくとみられます。

少子高齢化の進展が比較的顕著に現れる地区といえます。

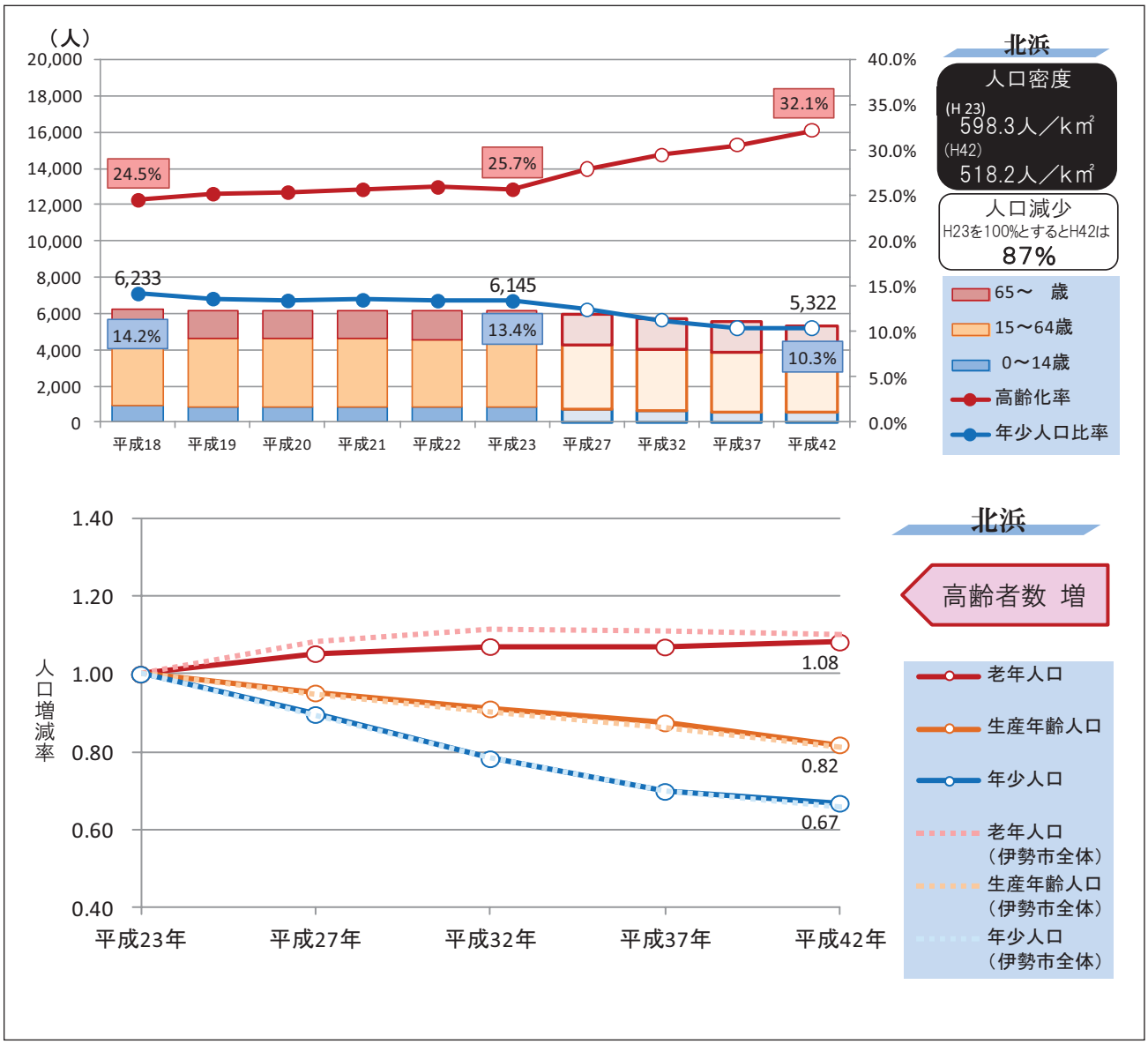


資料：将来の伊勢市のすがた

■　北浜地区（郊外グループ）

平成 23 年人口は比較的小さい規模であり、ほぼ横ばいで推移しています。高齢化率は市全体の平均に近い値で、高齢者数の伸び率は２番目に低くなっています。

将来の人口は、平成 42 年において高齢者数はほぼ横ばいに推移しますが、生産年齢人口と年少人口の減少により高齢化が進む見込みです。

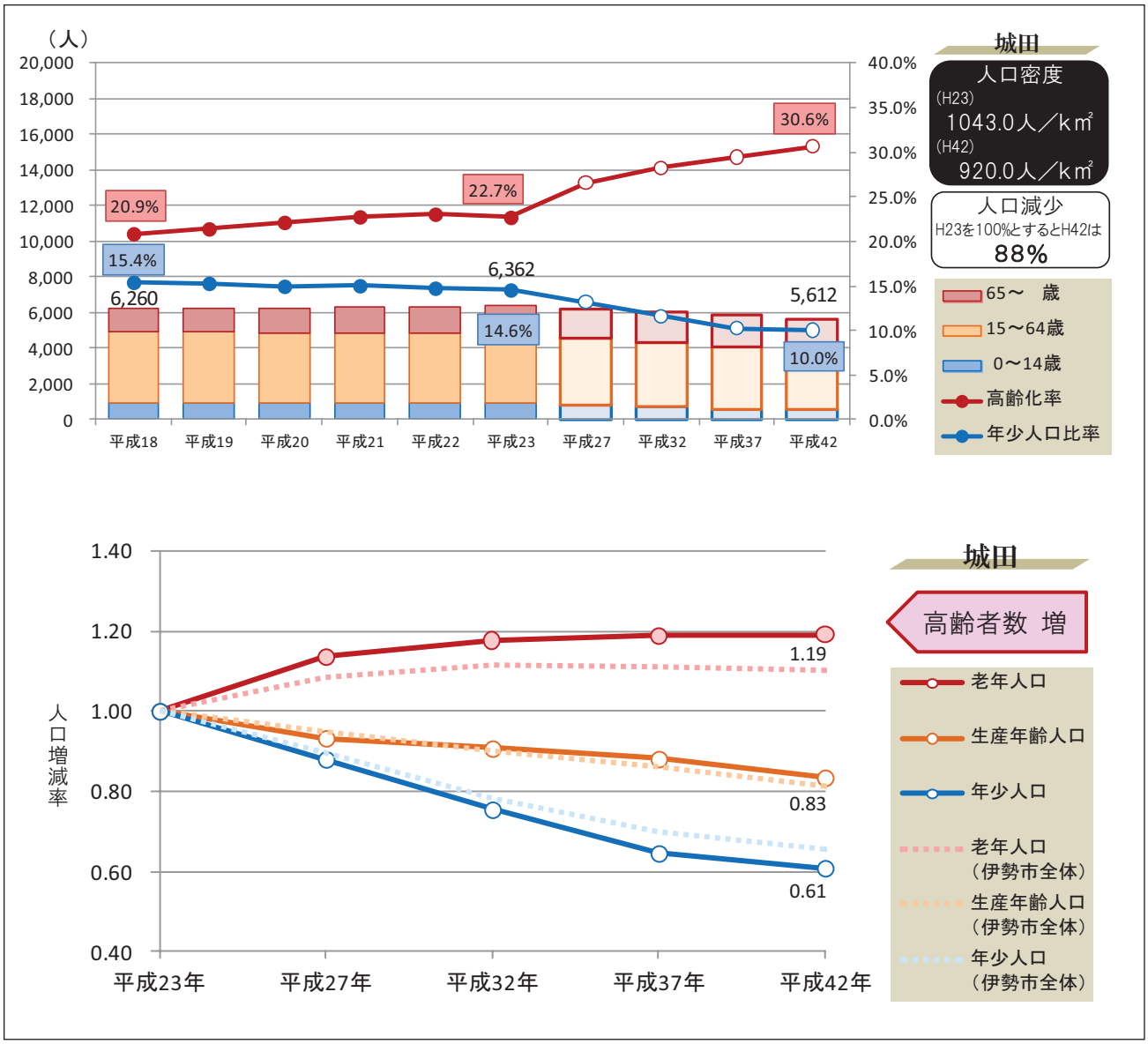


資料：将来の伊勢市のすがた

■　城田地区（近郊グループ）

平成 23 年の人口は、若干の増加傾向を示しています。高齢化率は市全体の平均より低くなっていますが、高齢者数は増加の見通しです。

将来の人口は、年少人口の減少幅が市内では２番目に大きくなる見込みで、少子化の影響によって、より長期的に人口構成が変化することが予想されます。



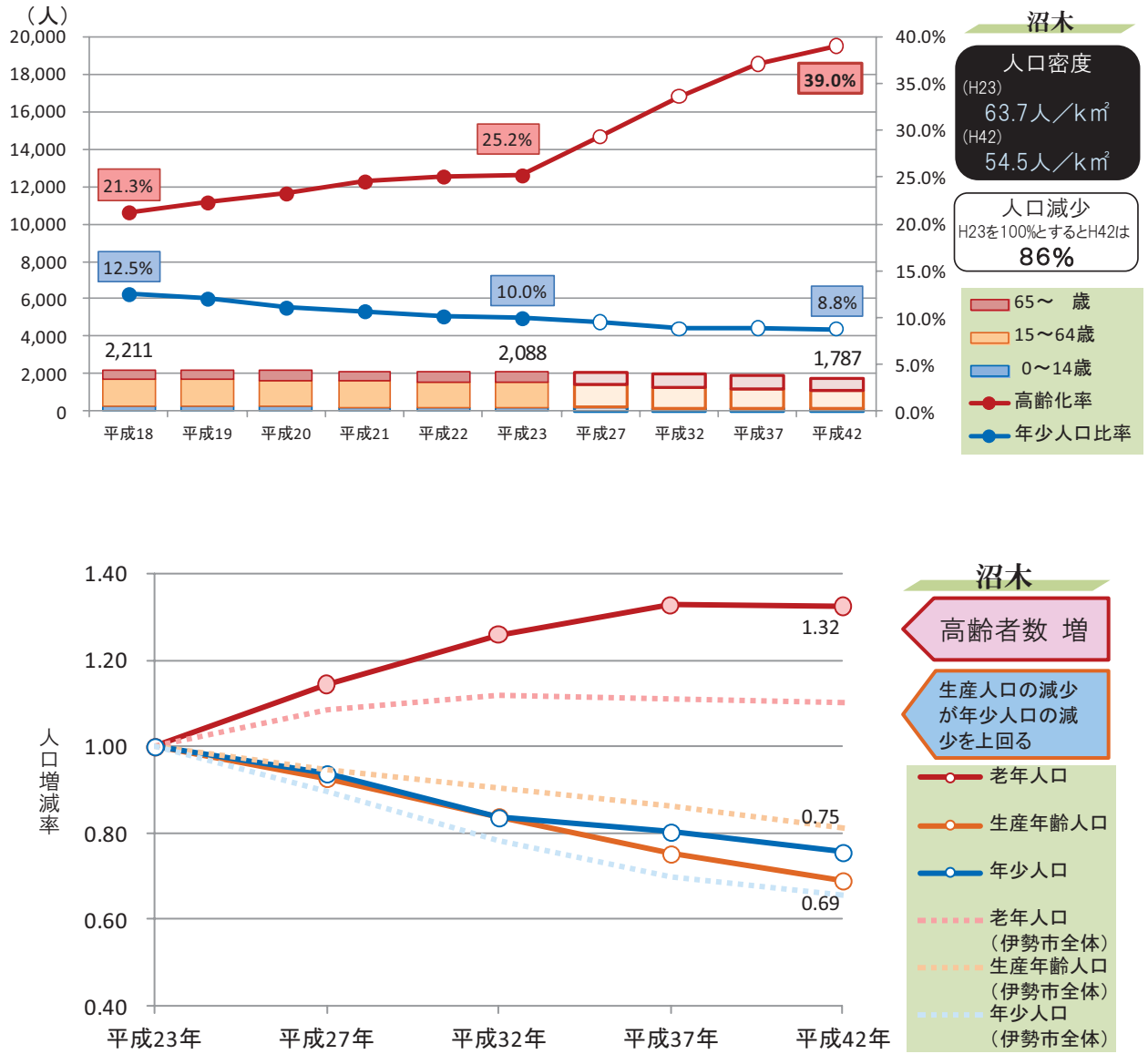
資料：将来の伊勢市のすがた

■　沼木地区（集落グループ）

平成 23 年の人口規模および人口密度は、市内 12 地区中最も小さく、宮川地区に次いで大きい割合で減少しています。

高齢者数は増加し、生産年齢人口が減少していくことから、高齢化が進行します。将来推計人口においては、平成 42 年の高齢化率が市内で最も高く、年少人口比率は最低、生産年齢人口比率は宮川地区に次ぐ低い値です。

沼木地区は、総人口が少ないという特性から、他の地区とは異なった対策が必要と考えられます。

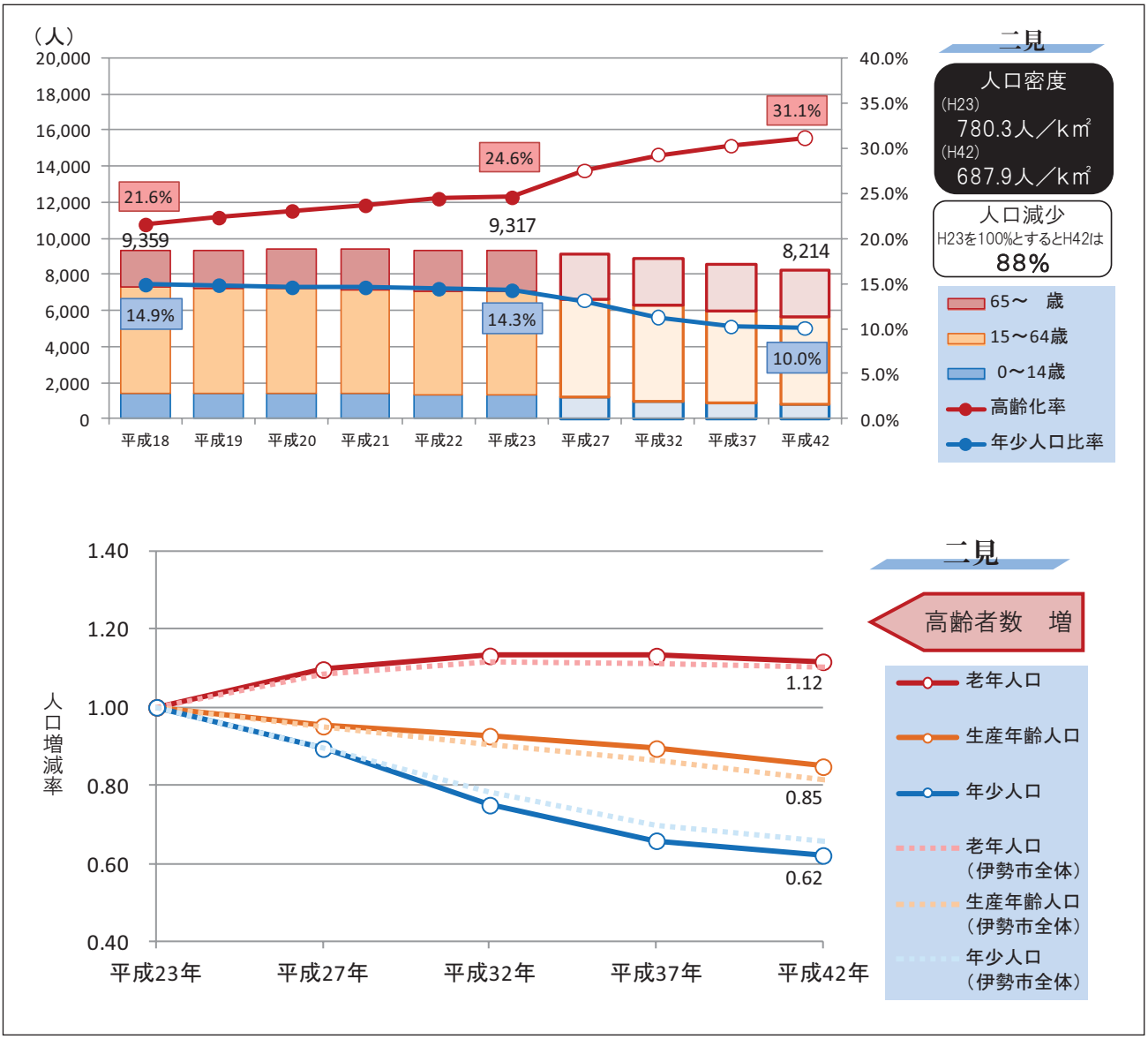


資料：将来の伊勢市のすがた

■　二見地区（郊外グループ）

平成 23 年の人口は 9,317 人と市内では中規模であり、平成 18 年からほぼ横ばいで推移しています。

地区内においては、近年大規模な住宅団地の分譲が行われており、生産年齢人口の一部に増加があるものと考えられます。少子高齢化は進展するものの、市の平均と比べると比較的小さい度合いとなる見込みです。



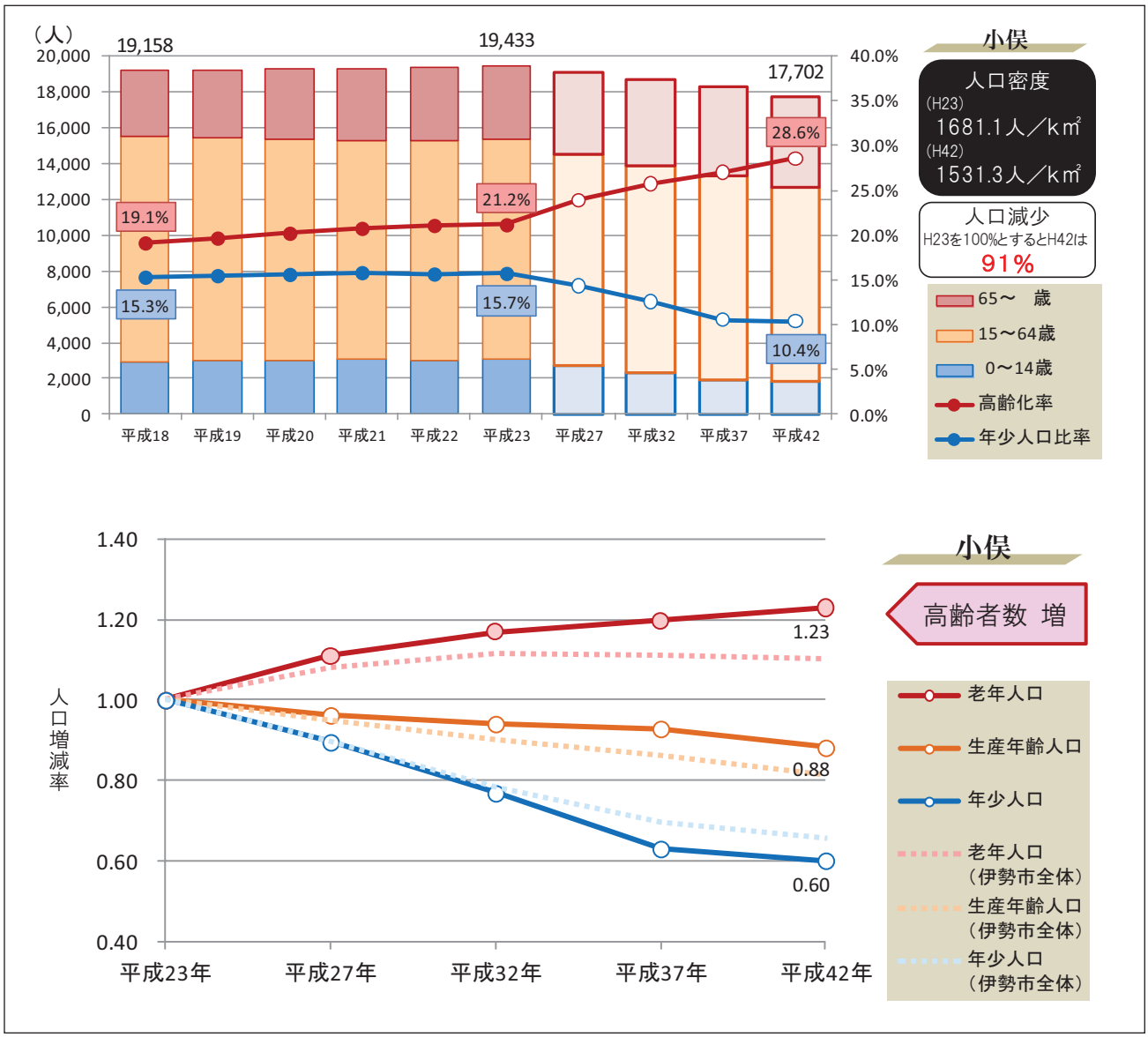
資料：将来の伊勢市のすがた

■　小俣地区（近郊グループ）

人口規模は市内最大であり、人口密度も高い地区です。平成 23 年は、年少人口比率は市内で最も高く、生産年齢人口比率も市内では上位にあります。小俣地区は旧小俣町の頃から、旧伊勢市のベッドタウンとしての性格を持っています。

将来推計人口によると、平成 23 年に対し平成 42 年は、港・御薗地区と並んで小さい下げ幅となっていますが、他地区と同様、年少人口、生産年齢人口の減少と、高齢者数の増加が見込まれます。

高齢者数が増加する中で、高齢者福祉施設の整備等の課題があります。

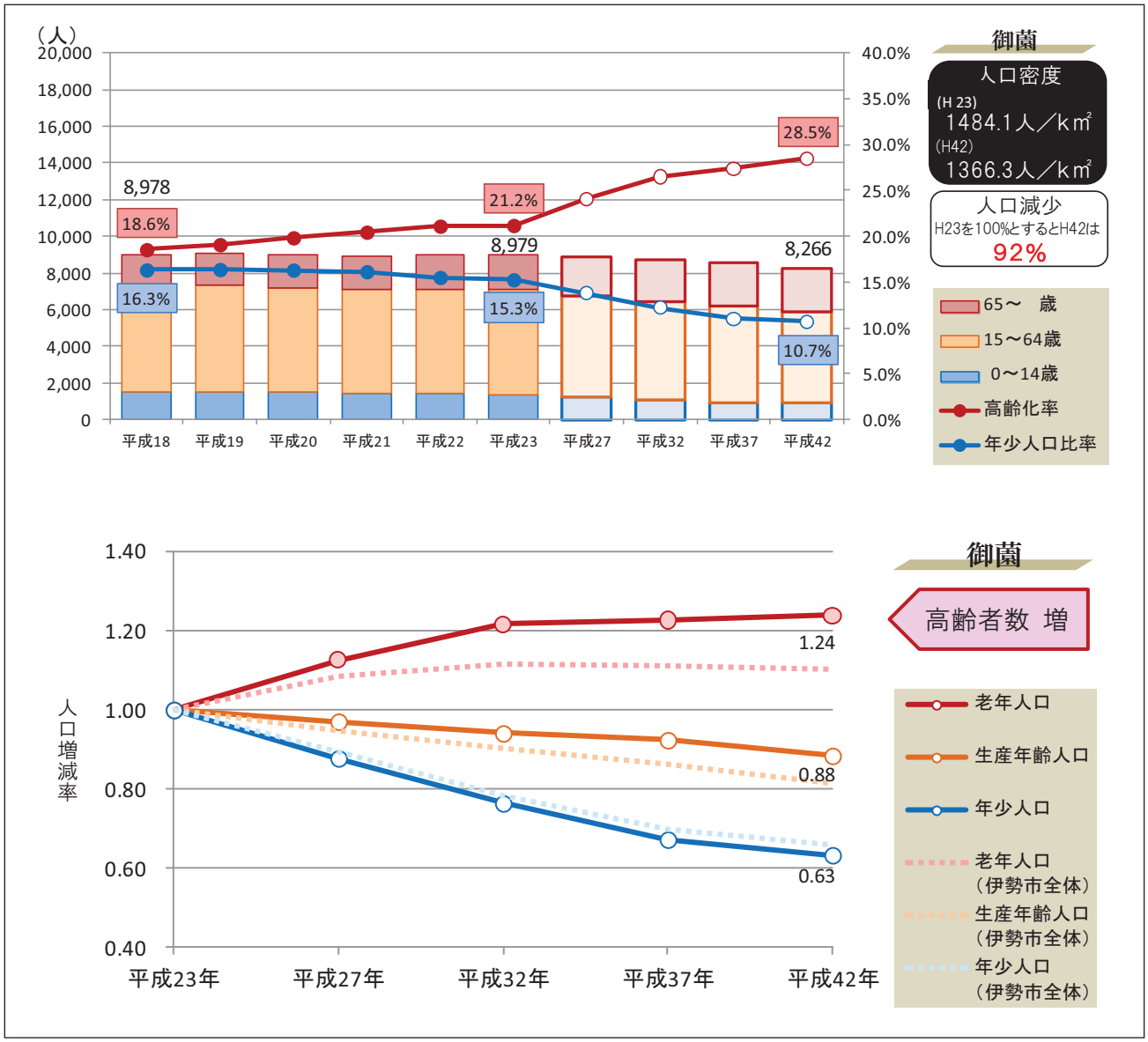


資料：将来の伊勢市のすがた

■　御薗地区（近郊グループ）

人口規模は市内では中規模であり、人口密度は比較的高い地区です。高齢化率は市内最低となっており、年少人口比率と生産年齢人口比率は市内上位にあります。

将来推計人口によると、平成 23 年に対し平成 42 年は、市内で最も減少率が小さく予想されています。小俣地区と並んで、人口減少・少子高齢化の度合いが小さい地区と言えますが、年少人口、生産年齢人口の減少と高齢者数の増加が見込まれます。



資料：将来の伊勢市のすがた

５．地域の特性および特色

豊浜			人口密度(H23)	505．2 人／km²
交通	駅	—	高齢化率(H23→H42)	26% → 34%
	主要道路	国道23号線	平成23年対比率(H23→H42)	86%
			国・県等の施設	—
	インター	—	地区みらい会議	豊浜東・豊浜西

伊勢市街とは宮川を隔てており、地区内を国道23号線が横断するが沿道は田園地帯で、集落は河口付近や海岸沿いに多い。

二見			人口密度(H23)	780．3 人／km²
交通	駅	二見浦・松下	高齢化率(H23→H42)	25% → 31%
	主要道路	国道42号線、伊勢二見鳥羽ライン	平成23年対比率(H23→H42)	88%
			国・県等の施設	水族館、テーマパーク
	インター	二見JCT	地区みらい会議	二見・今一色

旧・二見町。名勝「夫婦岩」を中心に観光施設が立地。老舗旅館が立ち並ぶ。JR二見浦駅に快速列車が停車。伊勢二見鳥羽ライン開通後、通過車両は減少したがIC付近に住宅開発が進む。

北浜			人口密度(H23)	598．3 人／km²
交通	駅	—	高齢化率(H23)	26% → 32%
	主要道路	国道23号線	平成23年対比率(H23→H42)	87%
			国・県等の施設	—
	インター	—	地区みらい会議	北浜・東大淀

地区内を横断する国道23号線沿道は田園地帯。集落は沿岸部に多く、隣接する明和町大淀地区とは河川を隔てているが、ひとつづきにある。内陸部には小規模な集落が点在しており、明和町の近鉄・明星駅に近い。

港			人口密度(H23)	1564．2 人／km²
交通	駅	五十鈴ヶ丘	高齢化率(H23→H42)	21% → 31%
	主要道路	国道23号線、国道42号線	平成23年対比率(H23→H42)	91%
			国・県等の施設	工場生産拠点、郊外型ショッピングセンター
	インター	—	地区みらい会議	神社・大湊・浜郷

地区内には工業団地が随所に見られる。沿岸の大湊には中小造船事業所が立地し、内陸にはタイヤ、重電メーカー等の生産拠点が立地する。地区を国道23号線が横断し、沿道にはモータリゼーションに伴い郊外型商業施設が多数立地。

御薗			人口密度(H23)	1484．1 人／km²
交通	駅	宮町	高齢化率(H23→H42)	21% → 29%
	主要道路	国道23号線	平成23年対比率(H23→H42)	92%
			国・県等の施設	工場生産拠点、郊外型ショッピングセンター
	インター	—	地区みらい会議	御薗

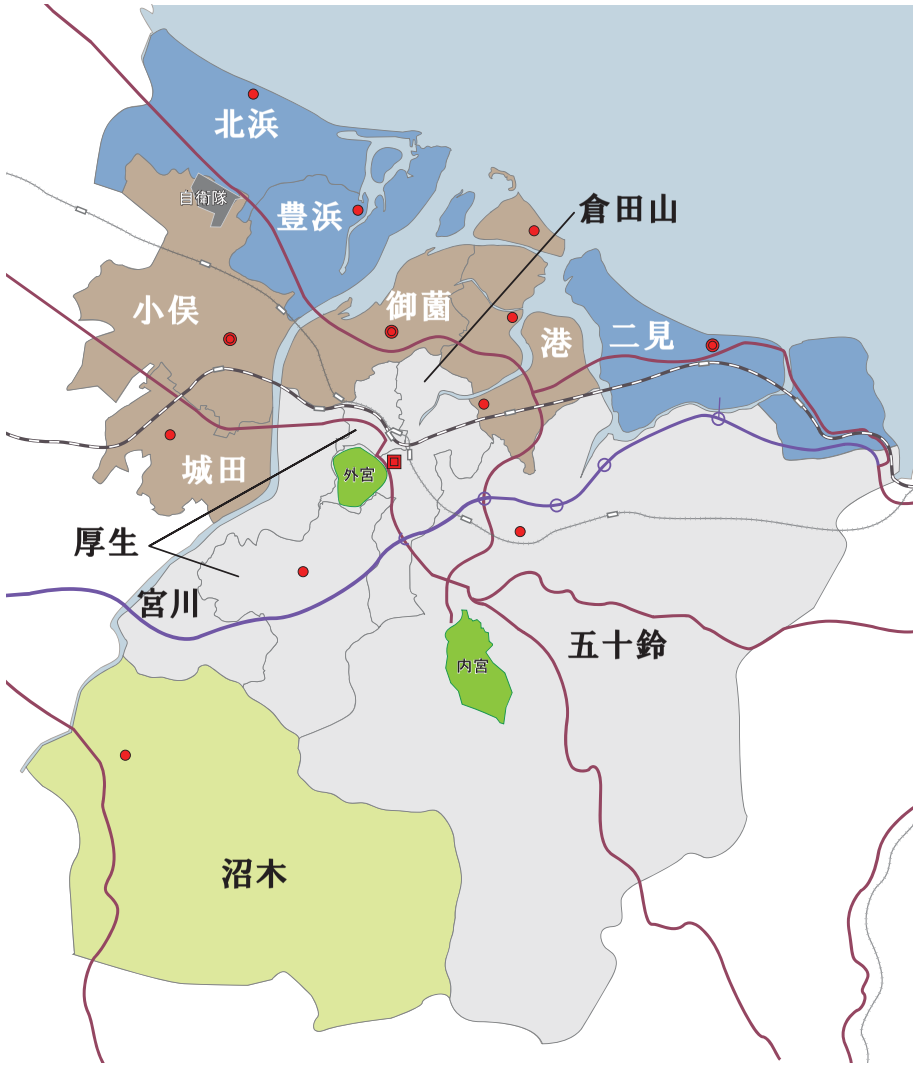
伊勢市のほぼ中央に位置していた旧・御薗村。国道23号線沿道に郊外型商業施設が立ち並び、その周囲にアパート・マンションが立ち並ぶ。伊勢市中心市街、伊勢市駅にも近い。高齢化率市内最低、人口減少率最小。

小俣			人口密度(H23)	1681．1 人／km²
交通	駅	明野・小俣・宮川	高齢化率(H23→H42)	21% → 29%
	主要道路	県道鳥羽松阪線（旧23号線）	平成23年対比率(H23→H42)	91%
			国・県等の施設	陸上自衛隊駐屯地
	インター	—	地区みらい会議	小俣・明野

明和町に隣接する明野・小俣小学校区に分かれる。近鉄駅周辺に住宅を形成、旧街道に沿って集落を形成。近鉄宮川駅南側からJR宮川駅北側までが旧・小俣町の中心市街地。地区人口市内最大、高齢化率最低、人口減少率最小。

城田			人口密度(H23)	1043．0 人／km²
交通	駅	—	高齢化率(H23→H42)	23% → 31%
	主要道路	県道鳥羽松阪線（旧23号線）	平成23年対比率(H23→H42)	88%
			国・県等の施設	—
	インター	—	地区みらい会議	城田

宮川の左岸に位置し、玉城町と接する。県道鳥羽松阪線沿道は郊外型商業施設が多数立地。



倉　田　山			人口密度(H23)	3208．2 人／km²
交通	駅	宇治山田	高齢化率(H23→H42)	30% → 35%
	主要道路	県道鳥羽松阪線（旧23号線）	平成23年対比率(H23→H42)	82%
			国・県等の施設	外宮、県庁舎、裁判所、税務署、私立大学
	インター	伊勢西IC	地区みらい会議	明倫・有緝

市役所本庁舎、裁判所等官庁が立地。市内最大規模の人口密度。宇治山田駅周辺は商業地。北部の河崎地区はかつての水運基地で古い街並みが残る。南部の伊勢西ハーフインター近辺は、開発された住宅団地が多い。

五　十　鈴			人口密度(H23)	217．5 人／km²
交通	駅	五十鈴川・朝熊	高齢化率(H23→H42)	29% → 35%
	主要道路	国道23号、伊勢二見鳥羽ライン	平成23年対比率(H23→H42)	84%
			国・県等の施設	内宮、県営総合競技場、県営サンアリーナ
	インター	伊勢IC	地区みらい会議	進修・修道・四郷

地区面積は市内最大であるが、その大部分は内宮と宮域林。伊勢自動車道・ICがあり、ショッピングセンターが立地する。近鉄・五十鈴川駅周辺は、駅開業にあわせて住宅開発がされている。内宮および周辺は、参拝客で賑わっている。

厚　生			人口密度(H23)	994．0 人／km²
交通	駅	伊勢市	高齢化率(H23→H42)	28% → 35%
	主要道路	県道鳥羽松阪線（旧23号線）	平成23年対比率(H23→H42)	86%
			国・県等の施設	商店街
	インター	—	地区みらい会議	厚生・宮山

外宮を挟んで、北側の厚生小学校区と南側の宮山小学校区に分かれる。厚生小学校区には、伊勢市駅が立地し高柳・新道といった古くからの商店街が立地する。宮山小学校区は住宅団地が開発されている。

宮　川			人口密度(H23)	1386．2 人／km²
交通	駅	山田上口	高齢化率(H23→H42)	32% → 39%
	主要道路	県道鳥羽松阪線（旧23号線）	平成23年対比率(H23→H42)	81%
			国・県等の施設	—
	インター	—	地区みらい会議	早修・中島・佐八

東西は外宮から度会橋の東詰で、南北は伊勢自動車道周辺から、JR参宮線周辺まで。度会橋の上流にはサニーロード（広域農道）まで、宮川地区内には橋がない。市内で高齢化率が最も高く、人口減少率も最も高い。

沼木			人口密度(H23)	63．7 人／km²
交通	駅	—	高齢化率(H23→H42)	25% → 39%
	主要道路	県道伊勢南島線	平成23年対比率(H23→H42)	86%
			国・県等の施設	—
	インター	—	地区みらい会議	上野

宮川を隔てて度会町と接する。地区内の大部分は森林。人口は市内他地区に比較して圧倒的に少ない。伊勢道・玉城ICまで約5km、伊勢市駅まで約10km。県道伊勢南島線が地区への主なアクセス。